AMDA Journal －国際協力－　7月号　□1998年　7月1日発行　（毎月1回1日発行）　1995年11月27日　第三種郵便物認可

月刊

AMDA 国際協力 Journal

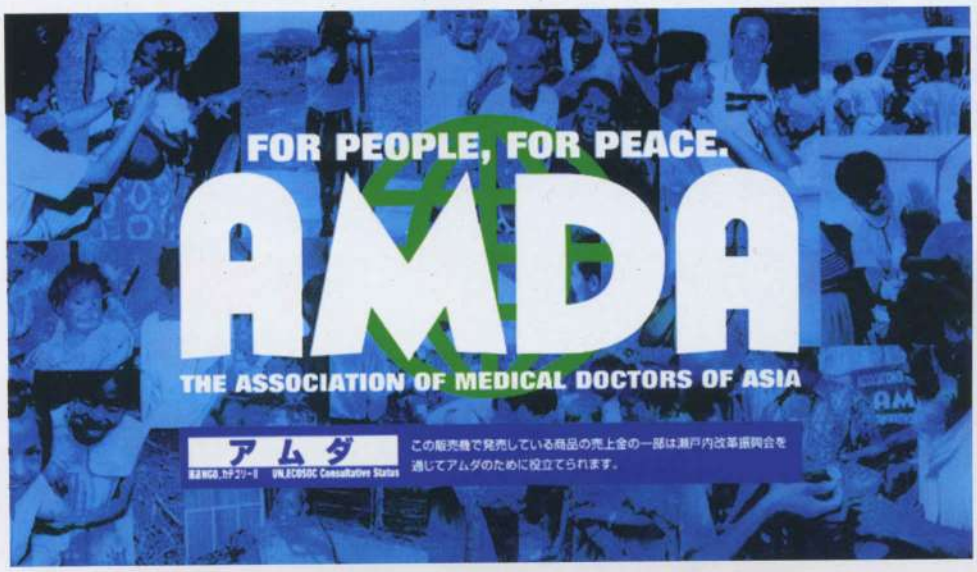
7
JULY
1998.7.1
(VOL.21 No.7)

Project Report
ボリビア緊急救援・ミャンマー訪問記他

AMDAスタディツアー特集

自動販売機でAMDAを応援します

「助け合い」



一緒にやること。

この自動販売機のお問い合わせは下記へお願いします。

株式会社フジタ商事

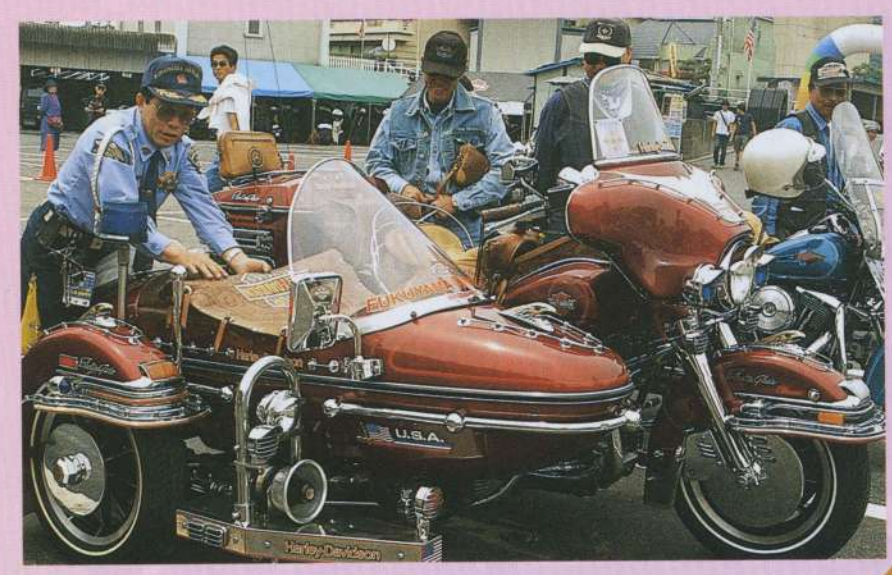
本　　社　福山市大門町5丁目11-34　TEL(0849)41-1143㈹
FAX(0849)41-3301

広島支店　広島市安芸区上瀬野1丁目6番4号　TEL(082)894-2113
岡山営業所　岡山市平田173-109　TEL(086)245-6377
高松営業所　高松市松並町784番地　TEL(0878)66-2583

ボリビア震災緊急救援

AMDA ボリビア支部からの派遣スタッフ

AMDA支援 トピックス



第6回 湯郷ハーレーフェスティバル

岡山県湯郷にハーレーダビッドソンが集結。催しを通してボランティアの皆さんによる、交通遺児とAMDAへの支援募金活動が行われた。

AMDAウガンダプロジェクト 支援コンサート

広島県福山市のNew Swing Dolphinsによるウガンダ子ども病院建設支援のJazzコンサートが開催された。

AMDA中国プロジェクト 支援コンサート

箏曲紘伶会発足20周年を記念し、琵琶奏者・楊宝元さん、二胡奏者・姜建華さん夫妻を迎えて開催された。

農業体験ツアー

県土地改良事業団連合会主催のこのツアーでは、参加者は田植えに挑戦するなど、農業への知識を学んだ。また、収穫米の半分が、AMDAを通じてアジアの子どもたちに送られる予定。

AMDA 国際協力 Journal

1998
7月号

◇

CONTENTS

ボリビア緊急救援	4
ミャンマーを訪れて	6
AMDAスタディツアー特集	8
カンボジア報告	15
ケニア報告	16
フィリピンから	17
早川達也のクローズアップ	20
JANANフォーラムダイジェスト	22
国際協力ひろば＜学校＞ 岡山県山陽高校	24
〃 ＜学校＞ 高知県高知商業高校	26
〃 ＜地域＞ 福山フィリピン協会	28
〃 ＜地域＞ 神辺ボランティア協議会	30
〃 ＜団体＞ 岡山県国際交流協会	31
投稿 中国・医科大学を訪問して	32
国内防災訓練参加計画概要	36
神奈川・沖縄支部便り	38
AMDA国際医療情報センター便り	43
事務局便り	50

表紙の写真

ミャンマー訪問の菅波夫妻

ミャンマーのメティーラで実施されているプライマリー・ヘルスケアの現場の診療所を訪問したAMDA代表　菅波夫妻。子どもたちにサンダルをプレゼントし、とても喜ばれました。

この診療所では、吉岡医師に引き続き桑田医師が活躍中です。

ボリビア震災緊急救援プロジェクト速報

AMDAボリビア支部代表
Dr. Foianini
AMDAプログラムマネージャー
岡 崎 悦 子

1998年5月22日午前0時30分頃、南米ボリビア中部のアイキレ（人口約２万人）とトトラ（人口約１万３千人）を中心にマグニチュード（M）5.9と6.8の地震が発生。

24日の段階では、1193軒の家屋倒壊、84人が死亡、約200人が負傷又は行方不明になっている。地滑りにより生き埋めになっている家屋や車両もあり、現地に２千人が足止めされている。現地は海抜2800mの高地で、気温５～６℃。アイキレへの空路によるアクセスは強風や突風、気圧の変化のため非常に危険で、既に２件の飛行機事故が発生していた。

アイキレにはバンセル大統領も入り、「国家の大惨事」と称し救援活動の指揮を執っていると言う。

AMDAボリビア支部の緊急救援活動

AMDAボリビア支部は1997年1月、ＥＭＧＲＵＰ（緊急事態対応協議会：『安全なる世界はより住み良い世界である』をスローガンに１９９４年に設立。1997年よりボリビア政府より公認協会として認定された。）の一部のメンバーにより設立された。

主な活動として緊急事態救急救命技能研修プログラム*を実施してきた。

［救援活動報告］

・23日午前５時、第一陣として医師３名をサンタクルスからアイキレへ陸路派遣。コチャバンバからの医師１名と合流し、被災地での緊急救援及び現地調査を行う予定であったが、道路封鎖のため途中帰還となった。

しかし現地ではAMDAボリビア支部の救命技能研修を受講した研修者たちが救援活動に参加していた。

・23日午後１時、第二陣として２名の医師を 政府により中等、重症患者が移送されているコチャバンバ（アイキレより北西約120Km）へ空路派遣。救急救命センターに医薬品が不足していたため、鎮痛剤、抗生物質、破傷風ワクチン、縫合キット等一部を提供。

現地での基礎調査及び救援第一段階を終えた第二陣は午後９時にサンタクルスに戻り、第一陣と連絡調整及び次期計画の検討を行った。

・25日午前８時、第三陣として医師３名をアイキレへ空路派遣。

アイキレの町は家屋等の破損、倒壊がひどく、８ヵ所に避難所があり仮設診療所が設置されていたが、テントやマットレスが不足し、さらに午前中は寒冷のため多くの子供たちが呼吸器系感染症に苦しんでいた。重症患者は全員コチャバンバへ移送されていた。近隣の村や遠隔地へは巡回医療チームが入っていた。

AMDAボリビアは医薬品、食料、水等の救援物資を提供。物資の配布、分配の速度は遅いが、徐々に行われ、近隣の村々へもオートバイにより搬送された。

［被災地状況］

・系統立った救援組織及びシステムが確立されていない。
・緊急必需品はテント、水、食料、基礎的医薬品。
・電気及び通信機が被災地では麻痺状態。
・道路のいくつかは通行不可能。
・トトラの拠点病院は破壊されている。
・今後、家、学校、医療施設、農作物（穀物）等の復旧が深刻問題となる。
・被災地は余震等により不安定な状態であり、住民の精神状態が危惧される。

ボリビア緊急事態救急救命技能研修プログラム

◇

AMDAボリビア支部代表　Dr. Foianini
AMDAプロジェクトマネージャー　林　信秀

AMDAボリビア支部はＥＭＧＲＵＰと連携して、
（１）医師、警察官、消防士及び消防関係者などを対象とする緊急事態対応のための研修実施
（２）緊急救援プログラム及び防災計画の発展におけるボリビア政府の支援
（３）防災プログラムにおけるボリビアのNGO及びその他の国との地域救命委員会を通じての協力促進の３点を目的として本事業を実施した。

［事業報告］

■1997年度　研修実施概要

（１）BLS：初級救命研修コース

消防関係を対象とした対応処置、医療補助、救援技術についての初級研修を実施した。本コースは、①成人救命　②乳幼児救命 ③救出；患者の固定・搬送・救急心肺蘇生（CPR）の３分野に区別して開講した。

（２）ATLS：上級救命技能研修プログラム

本プログラムを実施するためチリのサンディエゴにおいてAmerican College of Surgeonsと協定関係を結び、学生及びインストラクター課程のプログラムを策定実施した。

米国、メキシコ、チリ、ボリビアからインストラクターを招き、コースを終了した24名中16名の医師がボリビアのＡＴＬＳインストラクターとして選出され、定期的にATLSにおいて医師の訓練を実施した。

［事業成果］

（１）BLS及びCPR研修コースの実施によって、コミュニティにおける医療技術の向上が見られる。
（２）ATLS研修コースは救急医療技術普及と発展に今後も多大な貢献を継続すると確信される。
（３）事故や災害により被害を受けてから１時間以内の患者の処置及び蘇生技術を持つ医師を組織的に育成する目的で、理論講義、グループ討論、シュミレーションによる患者処置及び実地研修が実施されてきた。これにより、今まで以上に多くの患者の生命が救われることと確信される。
（４）最初のコースの受講者24名中16名がインストラクターとして承認され、ボリビア国内でのATLS研修が定期的に実施され、より多くの技術者が育成されることが期待される。
（５）今後の展望

ATLS研修は今後、サンタクルス市のSISME（緊急医療活動統合システム）並びにその他の地域におけるボリビア人外科医師グループとの連携により、1998年には受講生16名用が４コース、1999年には16名用６コース、2000年以降毎年20名用10コースを実施する計画である。

AMDAからのお願い

この度の救援活動では活動資金がかなり不足しております。現地での被災者支援のために皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

［募金先］郵便口座　01250－2－40709
口座名　AMDA
＊通信欄に［ボリビア震災」とお書き下さい。
（担当者；岡崎）

ミャンマーを訪問して

◇

AMDA代表　菅　波　　茂

1998年5月4日から4日間の短期間であったがミャンマーにおけるAMDAの活動を視察することができました。最初に今回の視察訪問に尽力いただいたすべての関係者の方々に心から感謝いたします。メティーラ地区で実施されている下記の4つのプロジェクト現場を視察しました。

（1）UNDP（国連開発計画）から委託されているPHCプロジェクト
（2）AMDA独自のヘルスポスト運営プロジェクト
（3）アジア仏教徒協会とAMDAの共同水プロジェクト
（4）ハンセン氏病村のソーラー付き深井戸プロジェクト

最初にUNDPから委託されているPHCプロジェクトについて説明します。

地域医療の発達が遅れているミャンマーにおいてAMDAは1995年よりメティーラ地区でしているが、この地区においてプライマリーヘルスケアを行うべく、12月より医療関係者のトレーニングを開始した。また医療関係者のみでなく将来的には一般地域住民へも活動を広げていく予定です。

ソーラー付き深井戸プロジェクト　オープニングセレモニー
（外務省の草の根無償資金協力による）

ヘルスセンターとヘルスポストを1ヶ所ずつ視察しました。ヘルスセンターではハンセン氏病のキャンペーンが成功裡に来年終了する予定とのことでした。成功の理由を尋ねると「地域住民のボランティア組織の短期教育と効果的な活動」であり、次の主な目標は「ポリオ」とのことでした。いずれにせよ「地域住民のボランティア組織」の存在を確認できたことはPHCに一番大切な「住民参加」が成立しており今後のコミュニティ健康増進活動の展開に自信がもてたのでした。ヘスルポストには助産婦さん一家が住み込みでがんばっていました。このPHCプロジェクトの本部事務所では助産婦さんや関係者のためにセミナーや打ち合わせが開催されていました。

二番目にAMDA独自のヘルスポスト運営プロジェクトについて説明します。このヘルスポストは現在活動している桑田医師の前任者である吉岡医師がポケットマネーを使って建てたものです。私たちが訪れた時も患者さんの波また波でした。桑田医師の午前中のヘルスポストでの激務に続き、現地事務所にある診察室でも午後の診療が夜の8時まであるとの報告にはただただ敬服するのみでした。

三番目にアジア仏教徒協会とAMDAの共同水プロジェクトについて説明します。これは日本政府の草の根無償資金をいただいてメティーラにある寺院に取り付けられ寺院付属学校の児童の飲料水として使用されています。ミャンマーのみならず発展途上国で一番大切なPHCのポイントは水の確保です。これは飲料水のみならず農業の問題にもいえます。私たちが訪れたヘルスポストの横にユニセフが設置したポンプ付きの深井戸がありましたが機能していませんでした。理由はポンプを動かすディーゼルを購入するお金が村に無いことでした。ヘルスセンターでは近所の家が火事のため焼け落ちていました。理由は消火する水

オープニングセレモニーに集まった人々も、共に喜んでくれた

不足が原因でした。火災に対する地域住民の教育と組織作りは急務と思いました。

最後にハンセン氏病村のソーラー付き深井戸プロジェクトについて説明します。これは日本政府の草の根無償資金を使って2年越しで成功にこぎつけたプロジェクトでした。オープニングセレモニーに主賓として参加する栄誉に浴することができたことを本当に感謝しています。

短期間の訪問中に多くの方々に面会する機会を得ました。保健大臣とは「母と子病院プロジェクト」について率直な意見を交換することができました。日本大使館の方々とは「母と子病院プロジェクト」を含めたAMDAの活動について示唆に富んだご教示をいただきました。JICA事務所の方々にも同様のご教示をいただきました。

ミャンマーの政治状況について論評する前にミャンマーでは保健医療事情の改善の緊急性を感じました。現在AMDAはミャンマーでNGO活動が実施できる数少ない日本のNGOです。「相互扶助の精神」で可能なことをどんどん実施していきたく思っています。

短期間に沢山の方々と面会でき、多くのプロジェクトサイトを訪問できたのはAMDAの現地カントリーダイレクターとして2年間にわたり活動してくれている宮本美紀氏の尽力の賜物と感謝しています。

関係者の方々にはAMDAのミャンマーにおけるプロジェクトに対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

メティーラの診療所で活躍する桑田医師とローカルスタッフ

'98 AMDA スタディツアーガイド

今年度もAMDAスタディツアーが以下のように企画されました。スタディーツアーが実施される、ネパール、フィリピン、カンボジア、バングラデシュでのAMDAの活動について（英文はAMDA International Newsletter Vol.10 No.3 July-Dec.1997 より転載）、また昨年度の参加者の感想等を紹介します。

<問い合わせ先: P 14参照>

◇ネパール　YMCA エデュケーショナルトラベル

	月日(曜)	月日(曜)	訪問地	現地時刻	交通機関	スケジュール	食事
1	〈第1班〉 7月25日（土）	〈第2班〉 8月1日（土）	関西空港発 バンコク着 バンコク発 カトマンズ着	01：50頃 05：35頃 10：30頃 12：35頃	TG775 TG311	空路、バンコク経由でカトマンズへ 着後、カトマンズ市内視察 【カトマンズ泊】	機内食 機内食 夕食
2	7月26日（日）	8月2日（日）	カトマンズ	終日	専用車	病院・福祉施設訪問、観光（カトマンズ市内・近郊）	朝食 夕食
3	7月27日（月）	8月3日（月）					朝食 夕食
4	7月28日（火）	8月4日（火）					朝食 夕食
5	7月29日（水）	8月5日（水）				【カトマンズ泊】	朝食 夕食
6	7月30日（木）	8月6日（木）	カトマンズ発 バンコク着 バンコク発	午前 13：40頃 18：10頃 23：59頃	TG312 TG622	出発まで自由行動 一路、帰国の途へ 【機内泊】	朝食 機内食
7	7月31日（金）	8月7日（金）	関西空港着	07：30頃		着後、解散	機内食

◎老人センター（マザーテレサの施設）
◎カンティこども病院　などを訪問します。

カーストによる差別やその他複合的な要因で、多くの人が病気や貧困と共に生活をしています。「医」の国境をとりはらい活動しているAMDAやその他のNGO団体の支援活動を通し、これからの国際協力について学んで下さい。

◇カンボジア（株）エフサンツーリスト

1	8月23日（日）	大阪発　午後関空より空路バンコクへ 東京発　午後成田より空路バンコクへ 夜　バンコク着　バンコク泊	夕　機
2	8月24日（月）	午前　空路バンコクへ　着後 AMDAプノンペンのメンバーと歓迎昼食会 午後　AMDAプノンペンクリニック視察と研修 夕食　日本人NGO駐在員を囲み夕食会 プノンペン泊	朝　○ 昼　○ 夕　○
3	8月25日（火）	午前　NGO活動視察（カンボディア・トラスト、ケマうなど） 午後　プノンペン市内視察（トゥールスレン収容所跡地、チェン・エク博物館など私服時代の検証など）　プノンペン泊	朝　○ 昼　○ 夕　○
4	8月26日（水）	午前　近郊の小学校訪問　児童・教職員との交流・交歓 夕刻　空路シェムリアップへ　着後「夕日のアンコールワット」視察　シェムリアップ泊	朝　○ 昼　○ 夕　○
5	8月27日（木）	終日　人類の文化遺産アンコールワットなど遺跡群視察 夕刻　空路プノンペンへ　プノンペン泊	朝　○ 昼　○ 夕　○
6	8月28日（金）	午前　古刹訪問交流（ワットウナロム寺院など日本人僧侶との交流も予定） 夕刻　空路バンコクへ　乗継便にて 夜または深夜　空路大阪・東京へ 機中泊	朝　○ 昼　○ 夕　機
7	8月29日（土）	朝または午前　関空・成田着	朝　機

◇バングラデシュ（株）エフサンツーリスト

1	8月　7日（金）	大阪発　午後関空より空路バンコクへ 東京発　午前成田より空路バンコクへ 午後または夕刻　バンコク着 夜　乗継便にて空路ダッカへ ダッカ泊	大阪 夕　機 東京 昼　機 夕　機
2	8月　8日（土）	スタディツアー・プログラム	各日 朝　○ 昼　○ 夕　○
3	8月　9日（日）	○AMDAバングラディッシュ インティグレイテッドプロジェクト 現場視察	
4	8月10日（月）	○AMDAバングラディッシュ ローラー 移動診療所視察 ○日本バングラディッシュ 友好病院(JBFH)訪問 ○ダッカ小児病院見学	
5	8月11日（火）	○GRAMEEN BANK APPROCH-NGO講義と見学 ○BRACK-NGO 訪問	
6	8月12日（水）	○OUSHTHA SHASTHYA KENDA(DSK)-NGO 訪問 ○国際協力事業団(JICA)訪問 ○日本大使館訪問 その他、ウェルカムパーティーなど予定 ダッカ泊	
7	8月13日（木）	午前　フリータイム 午後　空路バンコクへ 夕刻または夜　バンコク着　乗継便にて 夜または深夜　空路大阪・東京へ 機中泊	朝　○ 昼　× 夕　機
8	8月14日（金）	朝または午前　関空・成田着	朝　機

●往路のダッカ行きフライトは航空会社事情により翌8月8日午前便となる場合がございます。この場合バンコク1泊となります。

ネパール

＊Damark Hospital Project

Since 1992,refugees have been coming from Bhutan to Nepal. In response to this, the AMDA Nepal branch office in Damark has been extending medical services to the refugees. AMDA Nepal's base of operations is the Damark Hospital in Japa State, which functions as a key hospital not only for refugees but for local residents as well. This on-going project aims to raise the level of medical care in the area and to promote the health of local residents.

＊Kathmandu Medical Project

Around Kathmandu, there is a shortage of medical facilities, especially those providing services to the poor.This project, run by the AMDA Nepal branch office, aimed at improving the health of local poor people by spreading knowledge of basic health care and by organizing clinical activities for street children, the elderly, and people living on the outskirts of Kathmandu Valley.

＊Butwal Women and Children's Hospital

The Butwal Women and Children's Hospital was officially started in November 1997. Butwal is a city located in the west of Nepal which lacks sufficient medical facilities. This hospital will be the first women and children's hospital in Nepal.Also, the facilities will house a volunteer training center and a school for handicappedchildren.

ツアー参加報告１：

《主な訪問先での感想》

波多野　牧

＊老人センター

カトマンズ市内にある老人ホームは約180人の老人が入所しており、長い廊下にベッドが２列に並び、３畳ほどの診察室ではポカレル医師による診察がなされていた。センターでは入所者への日常生活上の指導と必要な人への治療的処置がなされていた。

＊AMDA病院（ダマック）

もとはブータン難民を対象に設立され、現在は地元ネパール住民の生活に定着していた。

40床の入院ベッドは満床、特に手術は他に施設がないこともあり、次々と患者が来る。

一人の医師が担当する手術の幅もかなり広く、「今日、私が行う手術は胆石、帝王切開、子どもの口唇裂、尿管結石を予定しています」という医師がいた。治療は物質的な面での不足を感じずにはいられなかったが、現状で提供できる限りのすべてを駆使し、地元の人々の信頼と期待を得ていることを強く感じた。

＊ブータン難民キャンプ

一般診察室、マラリアセクション、結核クリニック、薬局が１ヵ所にまとまり、近隣には予防接種やメンタルヘルスケア、家族計画指導などを行う施設もあり、キャンプ内における保健医療活動は十分網羅されていた。混雑した様子もなく、整然と整備されているという印象だった。ただ、衛生状況は改善すべき点が多々見受けられ、住民の衛生観念の教育がどれほど浸透するかが、今後の決め手ではないだろうか。

＊カンティエ子ども病院

比較的新しい建物できれいに整備されており、日本の病院と変わりない様子だった。目新しかったのは、外来の一角にＯＲＳ（経口補水塩）を実際に子どもに投与する親のための練習室があったことだ。また熱傷ユニットがあり、炊飯や照明としての火による受傷ケースが非常に多く、生活様式による傷病の特殊性を感じた。

ネパール全国で小児病院はここだけなので、国中から重度の患者が集まってくる。また、医師や医学生の小児科実習施設としても広く活用されていた。

＊AMDAネパール支部

ポカレル医師によりAMDAネパールの概要と今後の展望について伺った。特にブトワールに建設されるネパール子ども病院に関して、財源的、物的、マンパワー等の課題を抱えつつ、世界のモデルになるような、支援によって建

てられる病院を実現したいという彼の情熱を強く感じた。

＊最後に

「国際協力に欠かせないことは、現地を知ること」の意味を一番感じた。海外での活動に関心は持っていても、やはり現地を（人々を、日常生活を、その国の歴史を、政治的背景を）知るということがいかに大切かということを今更ながらに感じさせられた。また、ツアー中は英語がコミュニケーション手段であったが、AMDA ネパールのスタッフの方々と話す際、英語だからというのではなく、たとえ日本語であっても適当な質問が思い浮かばず、まだまだ問題意識が希薄だったということを反省した。この一歩をぜひ今後に役立てたい。

ツアー参加報告 2 ：

《ネパール人の No Problem》

合田　典子

実際に行ったネパールは驚くことばかりだった。時間にルーズでかなり振り回された。

次にゴミの問題。ゴミ事情について説明を受けたが簡単に解決できそうにないと痛感させられた。（もっとも日本でもこの問題は同様であるが・・）ツアーの内容としては様々な見学と実際に少しの時間ではあるが手伝いもできて充実していた。看護婦制度から始まり難民キャンプまで、今まで日本のことしか知らなかったので大変刺激された。生活習慣、文化、経済の違いも明確で、日本という国を客観的に考える機会ともなった。

ネパールの人たちは本当に親切で、バサナホテルの従業員の皆さんのおかげでツアー中は楽しく過ごせたし、子どもたちは行く先々で私たちを笑顔で迎えてくれた。ポカレル医師の「ジェンジェン問題ありません」という言葉や、他の人たちの「No Problem」という言葉にはとてもリラックスできた。日本では通用しないような状況でも、ネパールでは「No Problem」でＯＫなのである。私はネパール人の「No Problem」がかなり気に入ってしまった。

３週間で何の理解ができるかと言われそうだが、私はネパールで看護婦として働いてみたいという気持ちになった。自分の将来をも考えさせられたスタディツアーだった。

カンボジア

＊AMDA Cambodia Clinic (ACC)

The AMDA Cambodia Clinic offered medical examinations and treatment to landmine victims and extremely poor residents. Indigent patients received medical services for free while those who could afford to pay were charged inexpensive rates. It is hoped that the economy will someday be able to support the medical needs of all people in Cambodia. Until then, AMDA Cambodia hopes to continue to establish clinics with the support of the Japanese Hachiya Kogyo.

AMDA Cambodia also supported clinical activities in Componspeu Province, day care centers, and the psychiatric ward of the Sihanouk Hospital.

ツアー参加報告 3 ：

《国際医療活動に再び参加したい》

秋田　美乃枝

カンボジアはポルポト時代を象徴に、内戦、飢餓、貧困、地雷、難民という暗いイメージだけを持っていた。しかし苛酷な時代があったとは思えない程、人々は穏やかで、子どもは子どもらしく、市場も活気に満ち、今の時代と共存しようとしているカンボジアを実感した。今回バンコク経由でプノンペン入りしたが、バンコクの空港ではタクシーやホテルの執拗な勧誘に辟易したが、カンボジアでは、たたずむように無言で待つ人がほとんどであった。短い滞在ではあったがこの穏やかな国民性を最後まで感じた。

ツアーは見学中心で物足りなさを感じたが、高い目線から見学してしまった私の姿勢にも反省すべきところがあった。カメラを片手に説明に耳を傾けるだけでは・・。もっと触れ合って、同じ目線で話をしなければならなかったと全行程を終えて感じた。

２年前、旧ユーゴスラビアでJENの一員として働くが、語学力の不足から納得のいく仕事が出来なかった。休暇の取れる限りＡＭＤＡのスタディツアーに参加し、数多くのプロジェクトを見学、勉強したうえで、もう一度国際医療活動に参加したいと思っている。

（この報告のツアーは１９９６年に行われたものです）

【スタディツアー、ボランティアを経て派遣員に】

ミャンマースタディツアー

ツアー参加報告４：
《是非スタディツアーに参加してみては…》
杉本　弓

何かボランティアをしたいとAMDAに行くようになったのは、大学も４年になろうとしている時だった。週１回か２回程度だが、行けば誰かに会え、作業の傍ら、いろいろなお話を聞くことができた。それも素晴しい人々ばかりで、どちらかというと臆病なわたしが初めて「知らない人と会うのが楽しみ」を感じるようになった。

初めてスタディツアーに行くときもかなり迷い、締切後に「まだ間に合いますか？」と問い合わせた程だったが、一緒にボランティアをしていた人の励ましがあって、参加することができた。

ミャンマースタディツアーは、私たちが初めての参加者だったらしく、行く前の情報は殆ど得られなかった。ヤンゴンに着いた夜、あまりの汚さ、不気味さに宿のトイレで一人立ち尽くしたことを懐かしく思う。10日間は短かったが、私はミャンマーという国、ミャンマーで出会った人々を大好きになって帰ってきた。

サラエボ前 JEN 事務所近く

一方では私は大学4年生。ＡＭＤＡに就職したいと思ったが社会経験も英語力もないので、とりあえず地元で就職し、いずれはAMDAで働けたらいいなと考えていた。

しかし、とりあえずの就職なんて、生易しいものではない。私の場合、専攻が福祉であったが故に、老人ホームでお年寄りの介護をすることになった。そして半日の休みを利用して、ボランティアに行っていた。

そんな中、たまたま旧ユーゴでJENが会計の人を探していると聞き、応募したところ、行けることになった。JENは、AMDAも構成員となっている5団体共同NGOである。こちらでの仕事は、毎月の会計処理、各事務所からあがってくるリクエストに応じ、お金を用意する、レポートをつくる、といったことをしている。

ここサラエボの街は戦争の傷跡が深く、建物は破壊され、未だに水も決まった時間にしかでない。NATO軍もまだ駐留している。

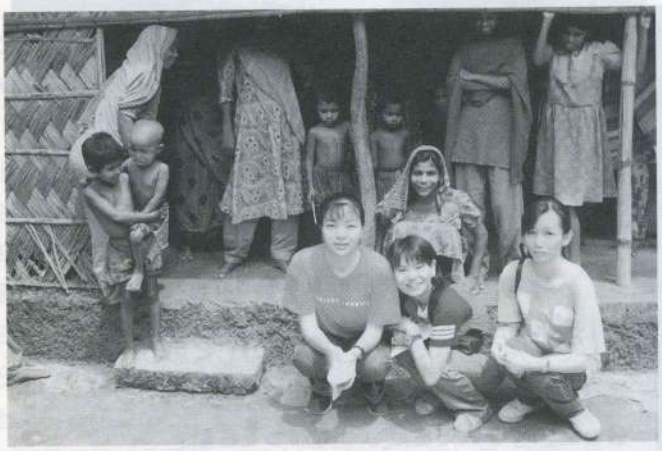
短期スタディツアーと、その後１ヶ月滞在させて頂いた私が、こんどはサラエボに住み、日本から来られる人を迎える側になって、分かったことがいくつかある。

１つは、明確な目的のない訪問は思った以上に迷惑を掛けるということ。日本と現地の間で、頻繁に連絡を取り合わなければならないし、通信事情も良くないので、ちょっとしたことでも大変で、意見の食い違いも生まれやすい。来られたら、多少なりとも生活のリズムが崩れる。

もう一つは、他の国が日本のことを知っているのに比べて、日本人は他の国を知らないのではないか、ということ。日本製の物や、文化はミャンマーでもサラエボでも良く知られていることに驚く。では私たちはどうか。

その国の理解を深め、起こっている問題を身近に感じるために、是非、スタディツアー等に参加されることをお薦めします。

バングラデシュ



＊Primary Health Care Project

The dissemination of health information is a key component to promote primary health care in Bangladesh. Primary health care through demonstrations, distribution of vitamins, and health education for hygiene, diarrhoel diseases,and sexually transmitted diseases.

＊Disaster Preparedness Project

As Bangladesh is often attacked by natural disasters such as cyclones, it was deemed important to prepare the people for disasters by the dispatch of specialists who promoted public health and emergency preparedness.

ツアー参加報告５：《ドンノバッ バングラデシュで出会った人たち》

手林　佳正

(ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭへの ｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰは、一般用ﾂｱｰと、NGOｶﾚｯｼﾞ受講者用ﾂｱｰとが行われました)

朝から夜まで講義とレポート作りの１週間だったNGOカレッジ。そしてバングラデシュへのスタディツアー。出会った笑顔や国際協力を熱く語る仲間の表情、そしてイスラムの国で禁断のビールを求めて気苦労したことなど、思い出が沸き起こります。

正直いうと、僕は協力という行為にあまり良いイメージはなかったのです。余裕ある人が暇にまかせて施しをしているとか、相手のためとは言いながら実は自己満足的に相手を振り回しているとか、所詮、援助国の政治的、経済的な利権を確保するための手足となっているにすぎないなどという感じ方でした。しかしそこに「住民参加型」とか「持続可能な発展」などという観念に見られるような、協力という行為を点検し深めていく、実践と理論の集積があることを知り、僕の考え方は変わり始めました。こうした援助する自分が相手に役立つ事を考え、工夫することは、僕たち臨床心理職にとっては日常的に考えていることであって、大変了解しやすいことであるという背景もあったと思います。そしてネパールやカンボジア、ブラジルでＮＧＯやＪＩＣＡの協力が行われている現場を参与的に訪れるうちに、僕の活動の場所をこの国際保健協力というところで創っていきたいと考えるようになってきました。

バングラデシュという国へ予てから行きたいと思っていました。援助される国として有名だったからです。住民にとって国際協力がどのように生き、また役立っていないのか、自分の目で見たかったのです。スタディツアーという形で、その機会を得たことを嬉しく思いました。ＡＭＤＡバングラデシュの活動は、途上国のリーダーとしてガンバル若き医師たちに夢と活動の場を創出していました。友好病院には菅波代表が個人的にも運営に参加されていました。また、無料金曜クリニックの実践やボートによる巡回もすばらしいと思いました。と同時に、そうした都市における病院を背景とする専門家によるケアではない、コミュニティに根ざしたＰＨＣというアプローチも協力の場面でもっと工夫されるべきとも感じました。

僕は日本や欧米のNGOやJICA、また多国籍機関や現地のCBOの経験をさらに学びながら、これまで関わってきた精神保健という分野で、援助する側も、される側にも意味ある途上国への協力を形にしたいと考えています。

フィリピン

（今年度はＮＧＯカレッジ受講者対象のスタディツアーとなります）

ツアー参加報告６：

《まず、自分の生活を変えたい》

植村るみ子

目の前の母親は、ドブからさらったような小さな魚をザルに乗せて炎天下に干している。

糸ミミズのような生き物が混ざっているが、あまりの数のためか、取り除かれることもなく。これが今夜の彼等の食事であろうか・・。1997年８月の太陽の下、私はバングラデシュの首都ダッカの都市スラムに立っていた。地元NGO団体であるDSKが作った、都市スラムの中の井戸を見学に来ていたのだ。同行の参加者たちは次々とその井戸の写真を撮り、白いマイクロバスへ戻っていく。全員が乗り込むと、運転手は来た時と同様に、派手にクラクションを鳴らして、リキシャ（自転車のタクシー）や周りの人たちを蹴散らしながら、狭いスラムの路地を出ていった。スラムの人たちから見た私たちはさぞかし妙な団体であろう、と苦笑した。

農村部では、平均的な家の構造を見学させてもらい、トイレが屋外にあるのを知って、公衆衛生に興味のある参加者は一列に並んで順番に写真を撮った。これも村の人たちから見ればさぞかし不思議な光景であったに違いない。

私たちが彼等の生活を見に行くのと同時に彼等もまた日本人の行動を見ているということを忘れてはならない。村の名士は英語で話し掛けてくる。それすらおどおどとしか答えられない私たちに、いったい何ができるのか。

問題はこのツアーの後なのだ。人類の貧困の現実を直視して、原因の追及と解決に努めること。「政府が良くない」とAMDAバングラデシュのドクターは言っていたが、それはこの国に限ったことではないだろう。日本という国が東南アジアの森を喰い尽くし、天然のダムを失った彼等は毎年洪水で数百名の死者を余儀なくされる。温暖化が加速すれば１メートルの海面上昇でバングラデシュの国土の７割が消失する。

本当に誰かを救いたいのであれば、まず自分の生活を変えることだ。紙は必要以上使わない。排気量の小さい車に努めて乗る。ものは一生使うつもりで大切に。それと同時に、一生続けられそうな地域交流・協力を図ることが望ましい。いわば、魂の交流だ。それぐらい本気で臨まなければ、何も見えないし、変わらない。

大きく人生観が変わっていった。

＊ AMDA Center for Training (ACT)

ACT Philippines was established and has been well-received. It has so far accepted three study tours, two from AMDA and one from Okayama. ACT Philippines is planning to conduct training programs for members of AMDA and other NGOs in the future, especially in field of health management.

＊Disaster Preparedness Project

Communities in the Philippines have been ill-prepared to handle disasters. Government efforts to establish local disaster units have been insufficient to meet the needs for disaster preparedness. AMDA Philippines has implemented a project that focuses on human resources development for disaster preparedness. It sought to train leaders from communities and schools who could promote preparedness and coordination during disasters through the establishment of the preparedness systems for disasters, disaster measures, transportation and communication in emergencies, potable water conservation measures, and training in first aid.

＊Project for Regional Advancement and Public Health

In Mindanao, Philippines, the health level of the residents' was relatively low. In areas where medical services were quite inaccessible, it was felt indispensable to promote health education of the residents themselves. AMDA Philippines has undertaken health education activities that focused on such areas as nutrition, child care, first aid, and HIV/AIDS prevention.

＊Women in Development Project

AMDA sought to promote the development of women in Tarlac through the provision of sewing machines, training, and loans for an income generation project. In addition, AMDA also promoted primary health care through the dissemination of health information on topics such as nutrition.

これからスタディツアーに参加する人たちへ

◇

植村　るみ子
1997年度　AMDA スタディツアー担当

AMDAは新聞やテレビからの外国ではなく、現地の人と同じ空気を吸って、同じ物を味わって、現地の人々と触れ合って、貧困とは何か、本当の豊かさとは何か、日本人として生きる自分と正面から対話する機会を持っていただくためにスタディツアーを企画しています。

またAMDAが海外で実施している活動、現地NGO、日本政府の国際協力の現場を視察し、現地で汗をながして活動に励む人々をよく見て、参考にして、政府間、草の根ベースを問わず、今後の国際協力の在り方を考察してもらえればと思います。

最後にツアー参加者の一人としてのアドバイスです！

1）英語は単語ひとつでも多く使えた方が良い

2）訪問国に関する情報は各個人で可能な限り入手しておくこと

3）知りたいこと、聞きたいことはどんどん質問すること

4）訪問国の文化を理解、尊重する気持ちを忘れずに

●航空会社・現地都合・参加人数等により、スケジュールが変更される場合もございます。予めご了承下さい。

●旅行日程については、各担当旅行社までお問い合せください。（P8参照）

YMCAエデュケーショナルトラベル　担当：瀬良　TEL：082-222-3003　FAX：082-222-3437

（株）エフサンツーリスト　担当：長谷川　TEL：03-5275-3917　FAX：03-5275-6925

●AMDAスタディツアーは会員の方へのご案内ですので、未加入の方は事前にAMDA会員に登録して下さい。

旅行企画：『AMDA本部事務局』

旅行主催：『YMCAエデュケーショナルトラベル　AMDAスタディツアーデスク』

『（株）エフサンツーリスト』

カンボジア活動報告

AMDAカンボジア診療所（ACC）の新たな前進

◇
AMDAカンボジア支部代表
シアン・リティ
翻訳　北澤　雅史

AMDAカンボジア診療所（ACC）は、AMDA本部より超音波診断装置（エコー）を贈られて以来、この新たな技術の導入により、医療分野において大きく前進を始めました。

カンボジアにおいてエコーは最新の診断機器のひとつです。このエコーを使っての診察費用は非常に高価なので、貧しい人々にとっては、エコーによる診察を受けることは困難といえます。毎日、ACCには様々な患者がやってきます。その大多数が貧困層の人たちであり、身体に障害を持った人たちであり、エコーによる診察が必要な人たちであるため、ACCではこの診察を無料で行っています。

ACCにおいてこの機器が、特に肝臓、腎臓、胆嚢、膀胱、膵臓の疾患をもっている患者および産婦人科の一部の患者への診察等に非常に役立っていることに感謝しています。

こうして貧しい人たち、身体に障害を持った人たちはAMDAのお陰でこのような最新の診察が受けられると喜び、ACCはカンボジアにおいて他の近代的な診療所や病院と肩が並べられるような診療所としての一歩を踏み出しました。

Proposed by Dr. Sieng Rithy
AMDA-Cambodia's Representative.

The New Step of AMDA-Cambodia-Clinic (ACC)

After receiving an echography machine from AMDA-Headquarters, ACC has passed in advance to the new technology in medical field. Echography is one among the whole new diagnostic machines in Cambodia. The cost of consultation for this machine is very expensive, so it's difficult for the poor people to receive this examination.

Every day all kinds of the people and for the majority the poor and handicapped people come to ACC for echography consultation, we provided freely to them for this examination. During one period of evaluation, we could appreciate that this machinecould help ACC very well in the diagnostic to the patient, especially for the disease of liver, kidney, gallbladder, urinary bladder, pancreas, and some parts of in the gyneco-obstetric... etc.

Finally, the poor and handicapped people they think that due to AMDA, they could get an examination in new medical technic like this and more the visage of ACC passed one step to reach other modern clinics and hospitals in Cambodia.

ケニアABC (AMDA Bank Complex) プロジェクト
(女性自立支援事業)

◇

連絡先　AMDA International　ケニア事務所
所長　林信秀(6月3日より10日ザンビア出張)

今年度プロジェクト実施予定地であったケニア北西部のガリッサは、1997年後半から降り続く大雨の影響を受け、同地域においてAMDAが準備を進めてきた女性自立支援事業実施が不可能になった。この為、ケニア全域に今回の大雨の影響を受けた洪水被害が広がったが、当事業実施可能で現地のニーズの高かったナイロビ・キベラスラムを選定して、同事業を開始した。

トレーニングには3つの要素がふくまれる。一つは衛生教育、もう一つは縫製トレーニング、もう一つは事業を実施するためのマイクロクレジット（小規模貸付）である。

縫製トレーニング

トレーニング期間は初期コースの1ヵ月とアドバンスコースの2ヵ月の計3ヵ月であった。対象者はキベラ居住の女性40名である。同地域を管轄する地方行政府の協力のもと住民への参加呼びかけを行った結果、募集40名に対し200名の女性が集まり、この中から部族・教育レベル等を考慮し40名を選択し、トレーニングを開始した。トレーニングのスケジュールは9：30〜11：15が縫製トレーニング、11：30〜12：30がヘルスエデュケーション、14：00〜15：00が縫製トレーニング、15：00〜15：30マイクロクレジットトレーニングで月曜日から金曜日迄毎日実施された。

1）縫製トレーニング

ミシン機材の名称や、基本的な使い方等のセミナー及びシンプルなドレスメーキングを終了し、現在ニーズの高い、子どもの学校制服と蚊帳の作成に取り組んでいる。

2）衛生教育

現在までに、飲料水、ごみ、排泄物処理、食料保存、伝染病、妊娠、栄養学等の基本的な内容の講義を終了した。

3）マイクロクレジット

基本的な経済の仕組みや、マイクロクレジットの仕組み等の講義を経て、現在、事業を始めるために必要な会計帳簿のつけ方を練習中。今後、この3つのトレーニング終了者の中から、希望者に小規模貸付を実施していく予定である。

現在も同トレーニングは進行中であるが、同プロジェクトが包括的に貧困に対応するプロジェクトであるため、ニーズは非常に高く、一日に複数名の女性が参加を希望してトレーニングセンターにやってくる状態である。このトレーニング終了後も次回の開催が現地から望まれている。

フィリピンから
青年海外協力隊との連携

◇

JICA家族計画・母子保健プロジェクト
チーム・リーダー　花田　恭

この2月にAMDA会員で保健婦の三浦美樹さんが、プロジェクトの短期専門家で来訪されました。プロジェクトの主要な活動の一つが、助産婦の地域保健活動能力の向上なのですが、昨年度は看護婦（保健婦/助産婦）の専門家が欠員のままでした。そこで、三浦さんに現場を見て検討していただき、プロジェクト活動への助言をいただきました。任務が終わって帰国される前に、青年海外協力隊に合格したことの連絡があって、みんなでお祝いしました。

母子保健：予防接種

JICAではプロジェクトと同じ中部ルソンで、青年海外協力隊をグループで派遣し、医薬品や機材を供与しながら、母子保健を中心とした地域保健活動を支援する国際協力を実施しています。この人口家族保健フロントライン計画は、協力隊員が地域の中に住み、日常生活をとおして、家族計画やエイズ予防の知識を、まわりの人々に伝達することもねらいとしています。プロジェクトと協力隊フロントライン計画は密接に連携しています。例えば、プロジェクトが実施する助産婦研修に、協力隊員や隊員の任地の助産婦が参加しています。また、プロジェクトの専門家には、隊員の草の根活動の経験が大変参考になります。その他、定期的に共同ワークショップを開催したりして連携を深めています。

「論語」の里仁編に、
子曰く、父母在せば、遠く遊ばず。
遊ぶこと必ず方あり。

とあります。協力隊員と連携していて思い出させられる言葉です。

隊員は40歳未満です。30歳前の若い方々が多いので、父母がたいていご健在です。両親に心配をかけないように、遠くにふらふら旅をしないようにとの孔子のお言葉です。しかし、「必ず方あり。」とありますように、やり方によっては良いのです。はっきりした目的のある旅で、両親に行き先や日程を告げて出かけるようにということです。孔子自身が若い弟子を連れて、教育や各国の行政顧問をしながら旅行しています。今から二千五百年前ですので当時の中国内の各国は開発途上国と言えるでしょう。したがって、孔子は途上国に技術移転をしてまわったプロジェクト専門家の大先輩と考えてもよいでしょう。隊員が良い経験を積み、JICA専門家に育って行くことを願わされます。三浦さん、頑張って！

フィリピン報告

◇

保健婦　三浦　美樹

・フィリピン共和国・家族計画（FP）母子保健（MCH）　プロジェクト短期専門家
・派遣機関：1998年2月16日～2月28日

活動日程

2月16日（月）	成田発マニラ着　JL741便　DOH－JICA　FP／MCH。プロジェクトマニラ事務所にて、現状把握、母親テレビ「ＴＶ99」（ビデオ）視聴。
17日（火）	マニラ発ターラック着。ターラック州病院長Drラモス面会
18日（水）	サンマニュアルRHU　(Rural Health Unit：市／町保健所)。バリバゴBHS(Barangay　(村) Health Station) BOTIKA BINHI（共同薬局）視察
19日（木）	FP／MCHサービス推進に携わる広告教育（IEC）に関する現状把握
20日（金）	小学校2校にてIEC事業、人形劇「Teatro99」視察。ターラック発サンホセ市イバ村着、村落助産婦アーセンさん宅泊。
21日（土）	アーセンさんの地域保健活動視察、村長パスカル氏面会
22日（日）	イバ村周辺見学、バスケットボール大会見学
23日（月）	サンペドロ村へ予防接種、地域保健活動視察
24日（火）	イバ村発　ターラックJICAオフィス着、ミシン技術研修開会式視察（ターラックMCHセンター）
25日（水）	ミシン技術研修2日目視察　ターラック発マニラ着。現地NGO（SMBK）オフィス視察 Drエマ面会、ローズさん（BHW：Barangay Health Worker：訓練を受けた地域のヘルスボランティア）宅泊。
26日（木）	ローズさんの案内により、パヤタスごみ集積所周辺見学。花田リーダーへ報告。
27日（金）	JICAフィリピン　事務所黒柳次長に報告
28日（土）	マニラ発成田着　JL742便

コミュニティ

私が主に活動した中部ルソンのターラック州と特にサンホセ市のイバ村についで報告します。ここは、マニラより北西へ150Km程のところにあり約5千人が居住しています。土地の大部分は、田んぼ、畑など農業に使われており、魚の養殖池、またサワリという竹の節を抜いて平たく広げて編み、家の壁を作る事が主な収入源となります。

朝、鶏の泣き声で目が覚め外に出ると、もやの掛かっている中、おじいさんは家の周りを掃いていました。子ども達も学校に行く前には掃除の分担を終えていました。

三世代が住んでいる場合も少なくない事、親戚関係の範囲が広く、人がよく家に訪問するなど、私はイバ村に来てすぐに20年前の母の実家での生活を懐かしく思い出しました。収穫物の交換、おかずを分け合ったり、また急病の時は金銭的な援助もしていました。そして人々はよくサリサリストア（小規模雑貨店）に集まり話に花が咲いていました。ここはコミュニティの情報交換、社交の場としての側面もあります。

この日常生活において多くの親戚と良好で親密な関係を保っておくことにより、いざという時にお互いに助け合うことができ最低限の生活が保障されていると考えられています。

このもとからあるコミュニティとJICAのテーマでもある「人づくり」という関係が相乗的に現れている事を感じました。

村落助産婦とＢＨＷ

イバのＢＨＳで村落助産婦のアーセンさんとそこのBHWの住民参加促進による地域保健活動が積極的である事を確認しました。

洗濯をしているアーセンさん。この行き帰りは、家庭訪問の機会ともなる

＊概論

BHSは通常4～6つの村に一つ置かれています。アーセンさんもイバBHS支所を拠点として他三つの村を受け持っています。

フィリピンの助産婦は、10年の基礎教育の上に2年の専門教育を経て国家試験があります。BHSは住民が病気になった時は通常ここで受診するという治療機能をもっています。そして彼女の活動は、分娩介助、妊産婦健診（火曜日）、新生児ケア、予防接種（全国で統一されて水曜日；ポリオ、三種混合、麻疹、破傷風、ＢＣＧ）、疾病治療（風邪、下痢が主でした）、家族計画（指導、避妊用品の配布）、5歳未満児検診、家庭訪問、ファーストエイドがあります。この他、BHWが村落助産婦の指導の元に協力者となって業務の介助、情報の地域への伝達等を行っています。金曜日には記録、報告を兼ねたミーティングがRHUで行われています。そしてこの記録は、保健省に集まり保健状況の基礎データーになります。

＊活動場面

となりの村へ保健活動、主に予防接種をアーセンさんと3人のBHWと共にジプニーに乗って行きました。事前にBHWが訪問する事を伝えていたのと、到着時に村長さんが村を周り、声を掛けていました。予防接種や血圧測定に来た人を含めると次々に30人位集まってきました。

BHWの血圧測定は、正確であり正常域も大体理解していました。その彼女は「訓練しました」と言った自信に満ちた笑顔に、自ら参加しているという感触を私は得ました。

予防接種に関しては、ワクチンを適正な温度で運ぶためのcold chainがありました。精綿での消毒、ディスポの針付き注射器を使っていました。清潔操作での問題はありませんでした。

私は以前AMDAでのアンゴラの活動で電気がなくワクチン保存方法の問題、ザイールでは注射部位の感染から潰瘍化した人に直面しました。その原因として注射器の不足からディスポの注射器を再生するしかなかった事、消毒薬が不足していた事、栄養不良であった事などが考えられました。ですから、この点からはとても安心しました。

相手国の社会背景、健康レベルも違いました。そして組織が違えば、活動内容や範囲の違いも感じました。ここでは、その組織が協調されていました。

住民の意見から設立した共同薬局プログラムを通じて現地NGO（SMBK）で活躍しているBHW。また保健衛生教育が人形劇（IEC）によって行われていますが、そのBHWの素質と研修によって、ストーリーを考え人形作りの実演もしています。この人々の上を向いた明るく暖かい笑顔を今でも思い出します。

最後に

母子保健に関して最初になされたことは、分娩の介助であると言われています。　そして子どもを生み育てるという機能に関する業務の本質は変わりません。5歳未満死亡率（出生1000人当りの死亡数で表します）は、地域保健医療水準を最も端的に表していると考えられています。

フィリピンの5歳未満死亡率は、1960年は107、1996年は38でした。1968年には、保健省に母子保健課が設置されました。現場で見たGOとNGOと、そして助産婦と住民の母子保健の必要性を理解し、同じ目標に向かっているチームワークとその積み重ねの成果の一部を感じました。大変お世話になり有難うございました。

参考文献

世界子供白書　1998　UNICEF
開発途上国の母子保健　1996年3月　厚生省　開発途上国における母子保健に関する研究班最終報告書
フィリピンの事典　石井米雄監修　　同朋舎
母子保健概論　松本清一著　文光堂
リージョン　地域概要・保健概要　　1996年7月現在
フィリピン国　JICA　EP・MCHプロジェクト

早川達也のクローズアップ

あむだってなむだ？

― 失敗の経験の共有を ―

AMDAのことを始めて知ったのは、1991年の夏のことである。まだ医学部の最終学年であった小生は、友人の紹介でAMDA本部に電話を入れた。「あの、AMDAについて知りたいんですけど…。」応対してくれたのは、現副代表、当時は、事務局長の山本先生であった。「学生さんなら暇ですよね?」「は?」「実は、ネパールに行っていただきたいんですけど。」「…。」「でも、一度岡山の本部に来ていただきたいんですが。」概ねこんなやり取りであったであろうか。

かくして、小生はAMDA日本支部の代表として、AMDAネパール支部の視察へ向かうこととなったのである。そう、AMDAの活動の基本の一つは「無節操」である。

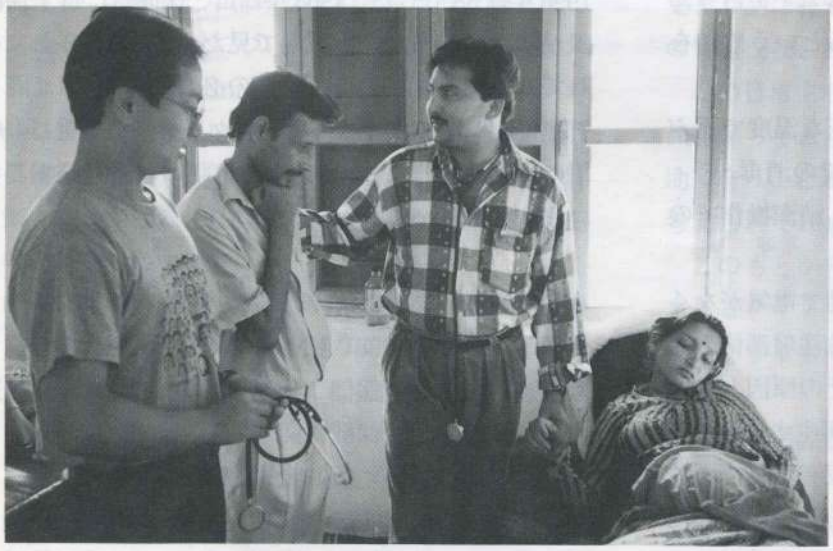
当時のネパールは、ビスヌ村の地域医療プロジェクトの立ち上げの真っ最中であった。そこでのAMDAネパールのDr.達の医療に対する真摯な姿勢は、小生にとっては刺激的であった。当時、必死になって書いた報告書の最後は、次のように締めくくられていた。

…彼らは休日返上、手弁当持参で、このプロジェクトのみならず、カトマンズのAMDA-AMSA-NMSS(ネパール医学生連盟)クリニックにも参加している。彼らの熱意と行動力を見るにつけAMDA Japanがこれを支援できることは大きな喜びであり、またこれを成功させんと支援することが責任であると思った…。

当時学生だった小生にとっては、医療の原点をみる思いであった、と言ってよいであろうか。

もちろん、AMDAの関わるプロジェクトが、こうした美しい想い出ばかりを残してくれたわけではないことも、触れなければならないであろう。立場上小生の関わる緊急救援プロジェクトについていくつか書いてみたい。

さて、AMDAによる緊急救援活動の歴史は、1991年のフィリピ



ネパール視察　左端、筆者

ネパール・ビスヌ村にて

ン・ピナツボ火山噴火被災者救援プロジェクトから始まった訳であるが、その中で、一つの節目となったのは、1994年の旧ユーゴでの活動と、ルワンダでの活動ではなかろうか。この時はじめて、紛争地域にあって、国連機関やその他の国際組織と、パートナーとして、相応の活動を展開した、と言っても良いであろうか。

これらの活動を踏まえて、1995年にAMDAは、国連からNGO協議資格(カテゴリーII)を与えられるに至った。しかし、こうした華やかな一面の影には、世界各国で、背水の陣を引かざるを得ない状況で、各プロジェクトに参加した人達の文字通り血の滲むような苦労が背景にあった。彼等の実態は、事前の輸送手段も通信手段も充分に持たず、使命感に燃えて、紛争地域に飛び込んでいった驚異の素人集団であった。彼等は、現地でその困難な現実に直面し、そうした状況を一つ一つ手探りで解決し、プロジェクトを推進していった。

この状況は、現在は変わったか。表面的には、変わったと言っても良いが、本質的には変わっていない、と言わざるを得ないであろう。

経験、それも失敗の経験の共有が必要である。先刻の旧ユーゴの話に戻してみる。

前年のソマリアでは、現地の武装組織に襲撃されて、生命からがら脱出したという貴重な経験があった。幸いにも旧ユーゴで活動していた調整員の一人は、その経験者であった。彼の経験と実力は、旧ユーゴにおいてもいかんなく発揮されていた。そしてゴマのルワンダ難民救援プロジェクトでは事前に危機管理プログラムが準備され、AMDAのチームが難民に襲われた時に効果を発揮した。

今後のプロジェクトの参加者に今までのような負担を強いるわけにはいかない。英雄の時代ではない。プロジェクトの推進にあたって、個人の資質によって支えられる要素が大きすぎるのは組織として未熟な証しでもある。もちろん、個人の資質が大いに発揮できることは、組織の柔軟性という意味で、素晴らしいことである。しかし、組織としての最低限の危機管理と安全対策は、必要である。そしてこれを進める上で、今までの失敗の経験は、財産であるはずである。

時間がない、資金がない、これは現実である。しかし、失敗の経験を共有する場の設定は、組織としての姿勢の問題でもある。今後の危機管理プログラムの充実は急を要する課題である。

表題「あむだってなむだ? 」について

これは、一昨年、札幌医大の有志の学生さん達が小生を招いてくれて、講演をしたときにつけてくれた表題です。北の地にあっても、医療ボランティア、緊急救援活動といえば、AMDAの声がかかるぐらいの知名度があるんですよ。

――――――――――

■早川達也（はやかわたつや）
AMDA Japan 緊急救援委員会
市立札幌病院救命救急センター

国際協力ネットワークセミナー広島（JANAN設立記念フォーラム）にパネリストおよびコメンテーターとして参加された方々のお話をダイジェストで紹介いたします。

JANANフォーラム

ダイジェスト

NGO/NPOの時代

◆加藤憲一：

財団法人　カラモジア専務理事

21世紀に向けてNGO/NPOがある意味で主体となっていくであろうと考えています。つまり時代を進化論的に言いますと、エラで呼吸してきた時代から肺呼吸時代に変わっていく時に、どうしても進化的に身体の仕組みとか、遺伝子の転換とかが必要です。そのDNAが次の世代にどう変わるかというその触媒、その転換させる役目をするのがNGO/NPOの働きであると考えています。

もっと具体的に言いますと、私のカラモジアという運動は南九州の農村を舞台に起こって来たのですが、日本という国は村国家なのです。村社会がずっと積み重なってでき上がった村国家というのは、外圧によって、いわゆる遺伝子を転換させてきたという歴史的事実があります。仏教の伝来、鉄砲の伝来であり、幕末のペリー来航、マッカーサー、そして今、次の大きな波が来ているのです。自分たちがどう脱皮するかという時期に掛かって来ています。その転換装置をNGO/NPOが持っているのではないかと、そういう大前提を持って、17年前、鹿児島の過疎の村から、いわゆる農村振興、国際交流という二つを掛け合わした運動がカラモジア運動でした。

私たちは都会に住んでいる留学生を毎年春休み、夏休みに鹿児島の過疎の村や町に入れることによって、農家の人々への世界への目覚め、いわゆる意識の改革等行ってきて、そして国際社会、ボーダレス社会となった今、地球社会と村社会とが助け合い、分かち合えるという理念が見えて来たのです。

21世紀の日本の社会風景というのは都市とか農村とか区別することなく、地球管理的なネットワークを作り上げていかなければならない、日本が国際的にも確固たる地位を得ていくための国家的課題についても、市民社会の登場、もっと目覚めた住民社会というのが育たなければ閉鎖的なイメージというのはなかなか変わっていかない。そういう意味において、潤滑油的機能を持つNGO/NPO時代が確実に来たなと感じております。

◆柳原富美男：

岡山県加茂川町総合福祉センター副所長

加茂川町は、岡山県のど真ん中ということもあって、「ハートオブおかやま」を合言葉にいろいろな施策を展開しておりますが、そのなかに国際交流、国際貢献とかがあります。平成4年に、県下の市町村に先駆け国際交流員を採用し、異文化への理解や世界に目を向けた人づくりを進めると時を同じくして、町長のバングラデシュ訪問をはじめ、何回かの発展途上国の視察の機会に恵まれ、町の中を国際化の風が吹き抜けていきました。こうした中で平成6年「加茂川町の国際化の推進に関する条例」を施行しました。そのとき全国の地方自治体では初めてと言われる『国際貢献』という言葉をその条例の中に入れました。ところが国際貢献の部分ばかりが一人歩きしまして、加茂川町は国際貢献条例を作ったということで、マスコミが大きく取り上げたため、自治省や外務省にも賛否両論、色々な問い合わせがあったように聞いております。それまで地方自治体の仕事の中に国際貢献というのは一切入っていなかったのです。これは自治法違反じゃないかというようなこともありました。しかし我々はいつも海外へ人を派遣して、困った国を助けようというのではありません。国内でも協力できることはありますし、そうした国を理解することによって、地域や人に対する思いやりの心、いたわりの心が育つのではないかと考えたからです。戦後、日本が荒廃から立ち直る時には全国横並び一線で復興に力を入れてきましたが、ある程度社会的な基盤が整いますと、次の段階として地域の特色を生かした街づくりや地域づくりが始まりました。それはいわゆる地域の資源、歴史、文化、伝統行事といったものを使った町おこしでもあります。そして今、21世紀の子どもたちにどういうものを残すかと考えた時に、どうしても異文化との交流が必要であるとして、地域間の交流、国際交流等を促すために「国際化の推進に関する条例」を作ったのです。行政も国際貢献も基本的には気配りとか思いやりとかが中心です。町づくりも同様に、行政が施策を展開していくときにそういうものを中心に展開していきます。優しい心とか、思いやりの心というものを大切にして

いこうというのが狙いです。行政といいますのは税金を使っている部分がありますので町民の利益になることに費やさなければなりません。加茂川町の場合、毎年海外に人を派遣しておりますが、これも自分の肌で感じた異文化の風や思いやり、豊かな心を地域に還元し町づくりの糧とすることで町民の方々にご理解いただいております。ただ、海外へ行くのが一部の人の特権であっては意味がありませんので、私どもでは全て公募で派遣するように心掛けています。高齢者から小学生まで、幅広く応募していただいた中から選んでいます。皆さんに等しく参加していただくということで、町民全員パスポートを持とうというのが合言葉です。

実践としての国際協力やボランティアの領域においては、行政だけの自己完結型ではなかなか解決できない部分がたくさんあります。いわゆるネットワークが必要な場合も多々ありまして、私どもはAMDAと協力体制をとっております。非常に情報がよく入ってきます。阪神淡路大震災の時もAMDAとの連携により、早い時期からのボランティア活動を行う事ができたのです。行政だけで解決出来ない部分にとって、NGOとのネットワークは必要不可欠なのです。今後もNGOとの連携を広げていきたいと考えています。

◆菅波　茂：
AMDA代表

NGOとNPOのあり方ですが、NPOの中にNGOを含めるスタイルが一般的に言われていますが、私は原則的にNGOとNPOは分けるべきだと考えています。理由はNGOというのは国境というものによって起こる数々の問題を、国境を越えて解決していくというのがNGOの原則だと思います。現在の世界は国境線によってできた国家だけで解決できないことは、国境線を越えていろんな人が協力し合っていくとか、他の国から国境線を越えて人道援助に行くという形ですので、国境線というものに拘って活動が成立しているのがNGOなのです。NPOは、営利か、非営利という分け方です。従って国境線というものは基本的に関係のないところで活動を行っている。こういう意味でNGOとNPOは基本的にアイデンティティーが違うという考え方です。NGOとして一番問題になっていることは、世の中、非常に伝達が速くなってきていますので、今まで自分たちが知らなかった国境線の向こうで何が起こっているのか、分かり安くなっています。それに対して自分が何ができるかということも分かっています。このメディアの発達によって世界各国の情報が瞬時にして入ってくるに従って、何ができるかということが分かっているNGOに対して大きな期待が掛かっています。また現在の世界秩序は国という国家主権で成り立っていますが、国家主権だから解決しきれない問題がたくさんでてきております。そういう意味でもNGOの役割は大きくなっています。

NPOに関しましては日本でも同様ですが、市場経済に巻き込まれて来ています。そうすると果たして営利だけで人間の快適な生活が確保できるかといいますと、社会的、公共的、地域的な問題はなかなか営利ということでは解決できない問題が非常にたくさん出て来ております。こういった問題は誰が解決するかというと、アメリカでも就労人口の15%から20%がNPOという存在において大きな活動をしているという意味で、日本でもこれからますます市場経済が発展するに従って、NPOの存在が必要になってくると思います。基本的にこのNGOとNPOを結び付けるものは、人間誰でも他人の役に立ちたいという気持ちが、NGO/NPOの共通の基本原則であり、今日の活動の生活をどうするのか、明日の家族の希望をどうするのかという、こういった共通の価値判断に基づいて他人の役に立ちたいという気持ちを発露していれば、それは基本的にNGOであろうがNPOの形をとろうが、それは結論としては一緒のことだと思います。

現在私たちNGO活動を行っていまして痛切に思いますのは、世の中にはいろんな存在があります。例えば国という存在がありますし、それから国を越えてできないことは国連機関が担当します。また人間生きていくための営利という形で自分達の生活を補償するために一つは営利事業、企業というものがあり、地域ごとの調整としては行政という存在もあります。そういったものでは解決できないところはNPOとかNGOがあり、人類の知恵を蓄積して次の世代に伝えていくアカデニズムという存在もあります。それから人間の心をいかに平和に保つかということで宗教という存在もあります。世の中の問題を解決していこうということがあった場合に、みんな他人の役に立ちたいという気持ちは持っています。それはどのポジションであっても同じことでしょう。そういった意味で連携ということが一つのキーワードになっていますし、逆に連携なくしては解決できない問題が非常に多いということで、JANANもそういった目的の一つとして組織されたものです。AMDAも医療NGOとして活動しておりますが、活動すればする程、医療の問題の背景には貧困問題があり、その背景には様々な教育問題、環境問題等々が出てきます。従って他の方々との連携軸というものを一生懸命模索しているのが、実はAMDAの現実なのです。

学校

音楽とスポーツでAMDA支援

岡山県山陽高等学校

音楽とスポーツ両面でAMDAを支援している岡山県山陽高等学校をご紹介します。吹奏学部の顧問の先生にお話を伺いました。

平成7年、吹奏学部がオーストラリアに演奏旅行に出かけた時の体験がきっかけでした。現地での3回の演奏をチャリティーコンサートにしたところ町中の人たちに大変喜ばれました。ホームステイ先では「こんなに素晴らしい子供たちを泊めたことを私たちは誇りに思う。」と言われました。帰国するときには町の人たちと空港で手を握り合い涙、涙のお別れとなり、生徒たちは自分たちの大好きな音楽で人の役に立つことを知りました。また、チャリティーというものを初めて実感しました。

翌8年特別演奏会を福山で開くにあたって、生徒たちはその収益を人の役に立つことに使いたいと考え「私たちの地元に本部のあるAMDAを通じて難民支援に役立てて貰おう。」と話がまとまりました。

空手クラブ「ゴラジュデ」のメンバー

AMDAとの打ち合わせの段階でちょうど旧ユーゴスラビアから6名の医師が研修に来日されました。そこで旧ユーゴスラビア難民支援演奏会とすることに決まりました。演奏会当日には日本各地で研修を受けている旧ユーゴスラビアの4名の医師もゲストとして参加し旧ユーゴスラビアの現状を話してくれました。

AMDAの支援コンサートと言うことで新聞に取り上げられたりラジオで放送されたりしたこともあり、いつもの父兄や友人、学校関係者だけにとどまらず一般の観客も多く、生徒をはじめ関係者を喜ばせました。

旧ユーゴスラビアでは難民・避難民の心身擁護の活動として空手が普及しています。しかし、空手着がなかなか手に入らず困っているという話を知らされました。岡山県山陽高等学校は空手部の活躍も全国的（毎年正月に「桃太郎杯」という空手の全国大会を主宰しています。）であり、空手を授業の一環として取り入れています。

そこで卒業生を中心に呼びかけて使わなくなった空手着を集めて送ることにしました。

船便であることと通関に手間取ったために約400着の空手着が届けられるのに半年以上かかりましたが、現地の空手クラブの人たちが喜んでいる様子が現地のNGO団体からの写真と手紙で伝えられてきました。難民に善意を届けることが容易でないことも納得できました。

平成9年10月15日

岡山県山陽高等学校の皆様
並びにご支援頂いた全ての方へ

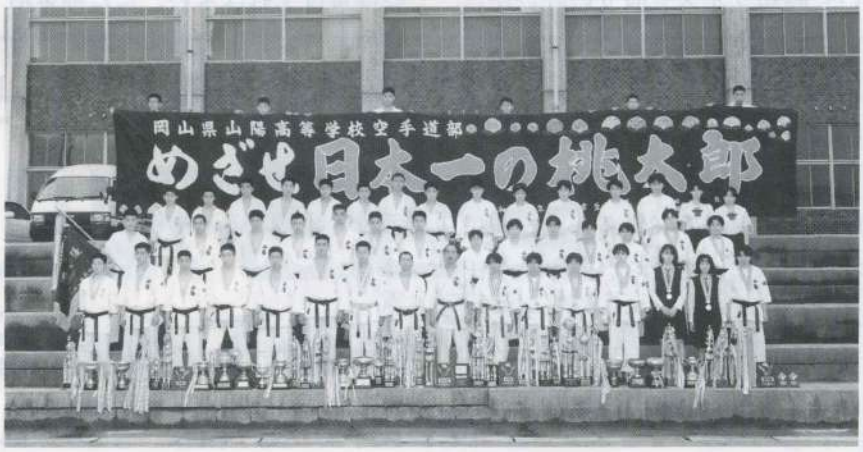
日本緊急救援NGOグループ（JEN）
ボスニア・ヘルツェゴビナゴラジュデ市
プロジェクトコーディネーター　加瀬　智子
JEN本部事務局担当者　AMDA　六本　有里（当時）

貴校の暖かい呼びかけにより、お集め頂いた空手着のご寄付を旧ユーゴスラビア ボスニア・ヘルツェゴビナのゴラジュデ市の空手クラブ「ゴラジュデ」（ヴァヒド・カンリックコーチ）にAMDAより寄贈させていただきましたのでここにご報告させて頂きます。

空手クラブにて贈呈式を行い、ヴァヒド・カンリックコーチにお渡しいたしました。このインストラクターはボスニア内で元No.1で、彼の生徒たちも素晴らしい成績を残しています。まだ戦争のつめあとが深く残るこのゴラジュデでこのクラブを通じ、子供たちは希望を持って生きています。添付の写真は地元スポーツセンターでご寄付頂いた空手着を着てデモンストレーションを行っているところです。カンリックコーチは、遠い日本からの支援に対する子供達の喜びの涙を皆様方にお見せしたかったと話してくれました。今後も暖かいご支援をお願いしたいと喜びの表情で語ってくれました。以上、ご報告申し上げますと共に、皆様のご支援、ご理解に対し、心より感謝申し上げます。

このように派手ではなくても自分たちでできる範囲の活動を続けていくこと、それを後輩たちに受け継いでいくことが今では岡山県山陽高等学校のひとつの柱として定着しました。
最後に、昨年の秋、校内に「おんじホール」という名前の素敵なコンサートホールができました。このホールを地域の人たちとの、音楽を通したふれあいの場としていきたいと考えています。

（文責：藤井　逸子）



学校

国づくりは人づくりから

―ラオス支援の試み―

高知県高知商業高校

ラオスへ買い付けに行った生徒たち

「ただ学校を贈るでけではなく、ラオスをもっともっと知って欲しい。子どもたちにも理解を深めてもらって、どんな援助をしたらいいのか、それぞれが考えて貰いたい」高知ラオス会設立の呼びかけをされた高知出身駐ラオス大使和田雅夫氏の言葉です。さらに「小学校建設資金を丸抱えするのでなく、木材やトタン、釘などの材料を贈って、現地の父母らにも一緒に柱や床を作ってもらいたい」和田氏の呼びかけにこたえてラオス会を設立されたメンバーであり、ラオス会会長浜田康氏の言葉です。

AMDAジャーナル6月号で高知ラオス会の活動を紹介しましたが、高知ラオス会はラオスの国造り人造りの一助として、婦人子供の地位向上、識字率の向上を目的とし、平成6年8月に設立され、小学校の建設活動等をおこなう、高知県で唯一国際ボランティア貯金配当金を受けている民間海外援助団体（NGO）であり、非常にヒューマニズム溢れる援助活動をされています。ただ資金を援助するだけでなく、援助する方は何のために、どうして援助が必要かをきちんと理解し、援助先のことを親身になって考えられなくては援助の意味がない。援助される側もただ受けるだけでなく、できるだけの手伝いをしてもらいたい、という。援助活動を行うのは寄付すればよい、ただ募金活動すればよい、と考えられている風潮もないではない今日、まさにラオス会のモットー『国づくりは人づくりから』は救援活動（ボランティア活動）の基本精神ではないでしょうか。

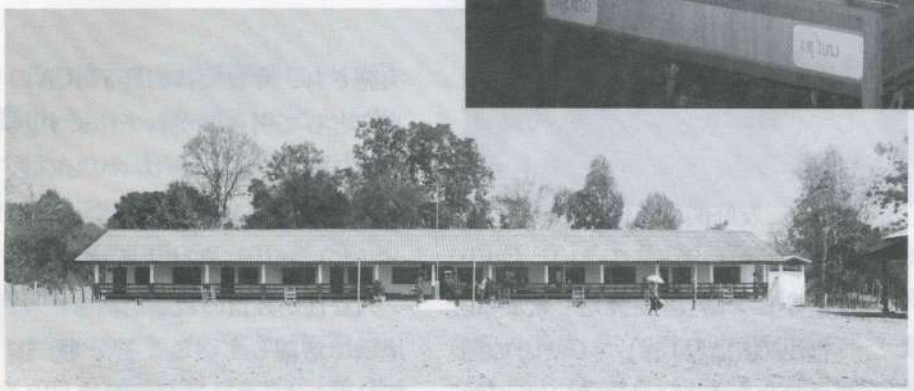
この高知ラオス会にしてこの高校生たち、と思えるような活動を行っているのが高知商業高校のラオス支援活動です。

最初は高知ラオス会のラオスに学校を建設しようという主旨に賛同して、募金活動を行ったり、文化祭で学校建設支援コンサートを開催していました。しかし支援年数を重ねていくうちに、実際に現地へ行って現状を知り、現地の子どもたちとも交流を深める機会を持ってからは、援助を考え、工夫するようになりました。

その一つが「ラオスの子どもたちにTシャツを！」キャンペーンです。蒸し暑い気候のラオスの子どもたちにと、高知県下の高校生にも呼びかけて、自分たちが持っているTシャツを寄付してもらうというものでした。なぜTシャツが必要なのか？Tシャツを発端にラオスの生活をより多くの高校生たちに理解してもらおうという、問題提議のキャンペーンでもありました。

さらに翌年にはパワーアップされた援助活動が開始されました。商業高校ならではのユニークな試みともいえる生徒会による株式会社設立です。校内での模擬実習の形態ではありましたが、会社名は『スーンマーディー』（ラオス語でいらっしゃいませ！）、発行株式は3800株、1株300円を全校生徒と教

新しい校舎で学ぶ子どもたち



職員が購入した。この資本金で8名の代表者がラオスへ生活用品、装飾品、民芸品等を買い付けに行き（ただしラオスへの旅費は自己負担）、数100点の商品を文化祭で販売しました。販売後の決算で黒字となったため、出資金保証後、一部配当も行われ、残金は自己負担補助金とラオス会援助金に充てられたのです。こうしてまた1校、小学校建設の運びとなりました。

そして援助活動を続けて4年目の高知商業高校の生徒さんたちは、ラオスとの交流を通して『豊かさ自己決定権』という考え方を提唱し、四国高校国際教育研究発表大会において発表されました。4つの学校建設を支援し、何度かラオスを訪ねていくうちに、「貧しくてかわいそうな国ラオス」というイメージは吹き飛んでしまった。ラオスの人々は実に穏やかな表情をしていたそうです。のどかな山村でゆったりと生活している人々をながめ、また実際に交流をもってみて、生活の貧しさと心の豊かさは決して比例するものではないことを学び、「精神的豊かさは自分自身で感じるもの」という『豊かさ自己決定権』という考えに辿り着いたのだそうです。

1998年1月18日の高知新聞にも『価値観変わった！　生きるを学ぶ』として取り上げられました。そして記事の最後は［指導に当たっている高知商業高校の岡崎伸二教諭は「『ラオスに寄付しました。現地で完成した校舎を見てきました』という単純な行き来だけでなく、生徒たちは交流の成果を自分たちに還元しようとしている。」と分析する。生徒たちはひと回り大きく成長しようとしている。］と結んでありました。

高知商業高校生の皆さんはラオスへの援助活動のお礼に、ラオスから生きることの大切さを教わったようです。

おみやげ・喫茶・お食事
岡山駅名店街
ピーチプラザ
岡山駅2F 新幹線改札口前

地域

『福山フィリピン協会』設立

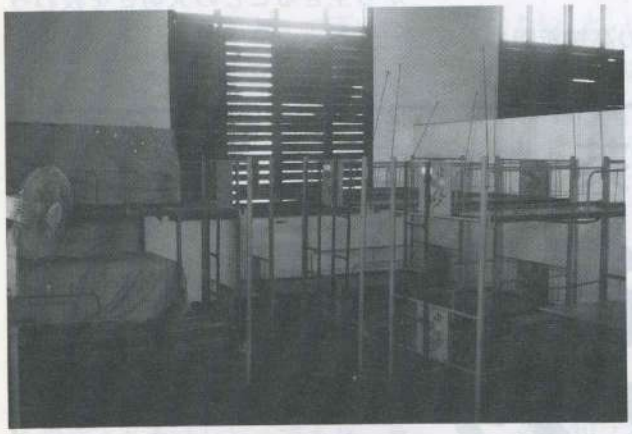
事務局長 村田 民雄（福山市議会議員）

「文化・教育・経済等の交流を通じて、フィリピンの人々との相互理解を深め、お互いがパートナーとして、友好関係を促進する」ことを目指して、さる5月31日「福山フィリピン協会」が発足しました。

福山（広島県）は、アジアとの関係ではフィリピンとの繋がりが強く、長い間「フィリピン協会」のような友好団体を作りたいとの声がありました。

福山市は1980年フィリピン・レイテ島のタクロバン市と姉妹都市提携をしています。この背景には、第2次世界大戦中レイテ島において、福山歩兵第41連隊約2300名が玉砕していることがあります。フィリピン国内での戦闘で、福山の兵士とともにフィリピンの人々の尊い命が多く失われました。そこで、1970年以降毎年、慰霊団としてのタクロバン市訪問が続いています。

また、民間に目を向けると、福山YMCAとレイテYMCAおよびセブYMCAが友好関係を継続しています。1983年に始まった友好キャンプ（ワークキャンプ）は、1990年まで4度にわたって実施され、今日では広島YMCAの事業として引き継がれています。



フィリピンろう学校　現在の寮

ところで、福山とフィリピンとの関係を見るとき、注目すべき点として、福山に在住するフィリピン人女性が独自の親睦組織を作り、地域で活躍していることです。国際結婚した「フィリピン国籍」市民が、F.F.O.（フィリピーノ・フレンドシップ・オーガナイゼイション）として組織を作り、地域社会にどっかと根を下ろしていることです。各地の公民館でフィリピン料理やフィリピン文化の紹介を行うとともに、最近では独自のコンサートも開催し、積極的に「福山発フィリピン文化」を発信しています。

さらに、福山にもフィリピンを対象にしたNGOが存在します。里親運動・「WWCA福山友の会」や「ワールドシップ～外国人と共に生きるネットワーク」などがありますし、また、民間の国際交流スペース「バグースJ」が最近オープンしたばかりです。週1回ランチタイムにフィリピン料理が出され、気軽に集えるオープンスペースとして人気も上々です。

このようにフィリピンとの友好関係を推進するには恵まれた条件にあり、この条件を十分に生かそうと「福山フィリピン協会」を結成するに至ったわけです。

福山フィリピン協会設立総会

この協会の充実を基礎に、「国際都市・福山」を創っていくことも夢ではありません。この協会の活動内容を充実させ、福山のまちづくりへ積極的に生かしていきたいと考えています。

さて、1998年度の事業計画（1998年6月～1999年3月）として、次のような事業を計画しています。通常の事業として「情報の収集および提供」があり、①ニュースレターの発行　②インターネットのホームページの開設　③フィリピンに関する資料収集および提供などです。「交流事業」としては、友好都市・タクロバン市訪問を計画しています。

また、地域に根付いた活動、特徴のある事業として「協力および支援活動」を位置づけ、①F.F.O.(Filipino Friendship Organization)の活動協力および支援　②CCWA（国際精神里親運動）をはじめとするNGO活動（国際ボランティア活動）への協力および支援　③「国立フィリピンろう学校」寮建設への支援事業　を計画しています。特に③の事業は、AMDAやYMCAのご協力とご指導をいただきながら、長期の充実した活動へと発展させたいと思っています。

その「国立フィリピンろう学校」について、少し紹介させていただきます。1907年開学のこの学校は、フィリピンおよびアジアのろうあ者にとっての先駆的な学校であり、最大規模のものです。カリキュラムとしては、①就学前、初等・中等教育　②成人のための識字学級および重複障害者学級　③自立生活準備のための職業教育　④就職準備のための体験プログラム　などがあります。

ここで学ぶ生徒数は780名に及び、フィリピン全土から来ています。ところが、現在の寮ではわずか20名程度しか利用できません。また、この寮ですら増え続ける生徒数に対応するため教室として改造し、利用せざるえず、新しい寮建設が緊急の課題となっています。遠隔地の、また金銭的に貧しい家庭の聴覚障害児にとって、寮は教育権保障として不可欠な施設なのです。当面50人が宿泊できる寮を、長期には100名宿泊可能な寮として建設する計画があります。しかし、フィリピン経済の現状では自力の建設は無理で、財政的支援が不可欠なのです。

そこで、私たち「福山フィリピン協会」の支援事業として位置づけ、当面は広島県内あるいは岡山県内のろう学校やろうあ者団体との交流を促進しながら、寮建設支援のキャンペーンを展開したいと考えています。

未来(あした)を考える
システムの包装商社

パステム マツザワ
〒791-8016 松山市久万の台689 TEL 089-925-7811

パステム オカヤマ
〒702-8048 岡山市福吉町18-7 TEL 086-263-5516

地域

神辺地区ボランティア連絡協議会

― 超高齢社会を前にして ―

会長 山本 馨

超高齢社会を前にして、私共にとって、何が欠かせない事柄なのかを考えるときに、それは老後を安心して暮らすことができるような、物的・精神的な環境が与えられることだと思います。「だれにもやさしいまちづくり」だといえます。

高齢者がそれぞれ、人間としての尊厳が維持できて、できれば自立して生活できることが必要です。

毎日新聞論説委員長 宮武 剛氏によると、いま進行中の「新ゴールドプラン」が最終の99年度に完全達成されても、その翌年の介護保険スタート時で、在宅サービスは希望者の約4割に応じる程度にすぎないと言っています。

私たちが懸命に取り組んでいる「小地域ネットワークづくりーボランティア活動」にしても「ふれあい・いきいきサロン神辺～小地域における仲間づくりを推進する～」にしても、その足りない部分（6割のあぶれる要介護者）の受け手として、補うことを大前提として、小地域における在宅介護活動を助け、仲間づくりをすすめるための一環として行っているものです。

1）「小地域ネットワークづくり」について

＊活動目標　神辺地区周辺におけるボランティアの相互交流と、資質向上を図るとともに、住み慣れた家庭・地域社会において生活を続けたいと望む、地域内の高齢者や身体障害者などに対し、介護支援を行い、その生活の向上を図ることを目的とする。

＊活動計画

①交流・研修・連絡会の開催

②潜在ボランティアの発掘・登録推進・広報活動

③ボランティア活動推進のための相談活動

④その他目的達成のために必要な活動

＊サービスメニュー

1　話し相手　2　洗濯　3　炊事　4　部屋の掃除
5　屋外の掃除　6　庭の除草　7　買物の代行
8　身体の清拭　9　食事の介助　10　入浴の介助
11　排便の介助　12　散歩の介助　13　夜間の介助
14　代筆　15　朗読　16　車椅子介助　17　剪定
18　包丁鋏研　19　電動器具修理　20　外出の介助

＊課題

①新分野の拡大　さしあたりボランティア活動の基本分野ともいえる「見守活動」

②プライバシーの保護、個人の尊重など福祉理論についての研修実施

③既に実施した利用者へのアフターケア

④スタッフの力量の向上、ボランティア・コーディネーターとしての資質向上

⑤広報活動・会員募集／増員

2）「ふれあい・いきいきサロン」について

＊原則　「気軽に・楽しく・無理なく」

＊サロン活動意義

①地域を耕す福祉コミュニティづくり

②地域に散らばるアンテナ

③繰りだし梯子

④住民として互いが出会う

＊特徴

①多様な活動形態

②柔軟な運営

③みんなが参加

④地域のサービスや専門家との連携

⑤当事者の生活にもっとも接近した活動

＊イベントメニュー

1　制作（絵画　押し絵　アートフラワー　子どもとの竹馬・凧づくり　他）
2　レクリエーション（囲碁・将棋・謡曲・詩吟・カラオケ・ダンス　他）
3　学習会（福祉の勉強会　書道・華道・茶道　あべこべ教室ー子どもから教わるゲーム・スポーツ・なぞなぞ　他）
4　食事作り（四季折々の会食　食事作りの実習　他）
5　話し合い（放談　反省会　他）

以上、趣旨や活動内容をご理解下さり、男女を問わず多数の方々が、会員としてご参加下さいますよう、お誘い致します。

＊お問い合せ：広島県深安郡神辺町　神辺公民館内
電話０８４９－６３－４０５０

団体

国際貢献ボランティア養成講座を開催

（財）岡山県国際交流協会

岡山県では、昨年に引き続き「国際貢献ボランティア養成講座」を開催します。この講座は、国際貢献ボランティアに前向きな県民の方々を対象に、国際貢献ボランティア活動に必要な基礎的知識の習得と、海外現地研修会を通して国際貢献を行う人材の養成を目的としてしています。

講座では、開発途上国における国際協力・貢献活動などについてお話しいただきます。また、講座終了後、希望者を対象にタイでの海外現地研修会を実施します。ボランティア活動に関心のある方は、ご参加ください。

開催日時　平成10年8月22日、29日、9月5日
毎週土曜日　14：00～15：30
16：00～17：30　計6講座

場　所　岡山国際交流センター　5階会議室（1）

参加資格　18歳以上で、国際貢献活動に関心のある岡山県民

定　員　50名

参加費　無　料

申込み　県庁国際課及び(財)岡山県国際交流協会に備え付けの参加申込書に必要事項を記入のうえ、直接申し込むか郵送またはファックスで申し込んでください。

締め切り　平成10年7月31日(金)必着

講座内容

第1回　「国際ボランティアとは？」　外務省職員（予定）
第2回　「海外ボランティア活動を通して」　青年海外協力隊OB
第3回　「国際ボランティアの心得」　AMDA　津曲兼司氏
第4回　「NGOの活動現場から」　JVC　松尾康範氏
第5回　「NGOの活動現場から」　クロントイの会　加賀博人氏
第6回　「21世紀のボランティア活動とは」
（財）岡山県国際交流協会理事　沖垣　達氏

＊海外研修会は、9月下旬、3泊4日でタイを予定しています。

■申込み及び問い合わせ

〒700-0026
岡山市奉還町2-2-1
岡山国際交流センター内
（財）岡山県国際交流協会
企画情報課
電話　086-256-2914
FAX　086-256-2489

投稿

中華人民共和国の東北部の医科大学を訪問して

平成10年4月15日

◇

和田　邦雄

この10数年来、中国の医師たちが日本の医科大学へ留学する際、日本での身元保証人になっている関係で、この度、中国の東北部（旧満州）の延辺医科大学（延吉市）と中国医科大学（瀋陽市）において、診察、手術、講演をする機会があり、若干の医療事情を知り得たので報告いたします。

平成10年4月5日（日）　現地時間午後0時15分（日本時間午後1時15分）大連着。
午後2時10分中国北方航空6621便大連発。午後3時30分延吉着。
午後4時30分腎臓内科の鄭　龍朱教授がホテルに来られる。
午後5時00分かねてより連絡を受けていた脳神経外科の李　相龍助教授が脳腫瘍等の患者のCTフィルムなどを持ってこられる。それらの治療法、手術等について検討する。

4月6日（月）　延辺大学病院へ行く。金　東国院長（51歳）、李　林虎副院長（46歳）、関立克副院長（41歳）、さらに金　海副院長（39歳）、それぞれに歓迎の辞を頂き、談話する。その後麻酔科・ICUの厳　相黙教授に会う。次に脳神経外科の教室へ行き、玄　漢石教授（60歳）、李助教授（51歳）らと脳外科の病棟を共に回診する。

4月7日（火）　午前8時、病院へ。午後9時手術室へ入る。午前9時20分より、脳腫瘍の患者（65歳女）の全摘出手術の執刀をする。頭蓋骨はAie-tomeが無いので糸ノコギリにてはずした。（24～25年ぶりに糸ノコギリを使った）。午前10時50分手術終了する。午後、病棟回診する。

4月8日（水）　講演「日本の最新の臨床医学について」
講義「わが病院における最近の諸疾患、外傷症例の診断と新しい治療についてスライド呈示」を行う。

4月9日（木）　中国北方航空機にて延吉発→瀋陽着。瀋陽市（中国字沈陽）は旧満州の奉天である。人口は約630万人である。

4月10日（金）　午前8時　私の宿泊先のホテルへ脳神経外科の王　連杰助教授と麻酔科・ICUの金　玄玉講師（3年ぶりに再開した）が大学の車で迎えにきてくれ、中国医科大学に行く。脳神経外科の楊　国瑞教授の出迎えを受ける。あいさつの後、脳外科病棟の回診を王助教授ら医局員と共に行い、症例の診断、治療法などについてディスカッションを行う。その後、夕方まで、講演を行う。各医師の意欲ある熱いまなざしが感じられ、質問も高いレベルの内容が多かった。

延辺大学付属病院正門にて

延吉は、吉林省延辺朝鮮自治州の首府である。約60Km東方には北朝鮮との国境がある。大連から飛行機で1時間20分であり、北京からは列車で30時間かかる。

当自治州の人口は約250万であり、漢族は57%、朝鮮族は40%、満族は2.6%、回族は0.3%、少数民族が0.1%である。延吉市の面積は、1,340K　で、人口は約38万人（1997年）であり、そのうち朝鮮族は約20万人を占めている。住民の平均年収は約6,000元（日本円で10万円）である。

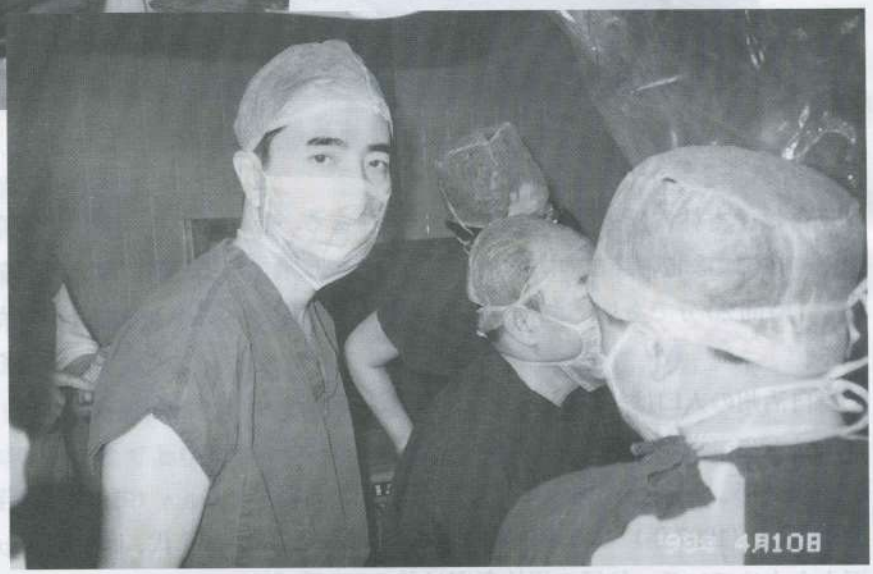
気候は、春季乾燥多風、夏季温熱多雨、秋季涼爽小雨、冬季寒冷期長と表現されており、冬期の最低気温零下23～24度、夏期の最高気温34～38度、日中の寒暖差が激しい盆地の大陸気候であり、霜期は年間100～150日である。

延辺医科大学は付属病院（中国名で延辺医学院付属病院）は延吉市内にあり敷地面積116,662　、建築面積31,697　である。1946年12月1日創立。27診療科目があり（心臓外科、脳神経外科なども含む）、ベッド数は750である。医師数は約200人であり教授（主任医師という）は21人、助教授は68人である。看護婦は約600人で、職員は全体で約1,200人である。外来患者は、1日約1,500人である。1993年度の延べ外来患者数は302,473人、入院患者数は11,134人、手術件数は5,188例であった。国家より「三級甲等医院」と認定されている（中国では病院に等級をつけており、三級甲は上から2番目のランクである）。ここ数年来より腎移植も行われている。難しい症例は他の大学病院へ紹介するが、北京から専門医師の応援を求めたり、時には韓国から医師が来たりしている。1ヶ月半前には人工心肺を使っての心臓手術が、韓国に医師によって行われたが手術中死亡した。助教授、講師などの若手の医師らには新しい医療などへの意欲、熱意が感じられた。

中国医科大学は遼寧省沈陽市にある。我々が高校時代、歴史で習ったあの大和ホテル（現存している）から約200　の所に立地している。中国医科大学の創建は1931年中国南部の瑞全において毛沢東によるものである。その後毛沢東の2万5千里の紅軍長征につれて、中国中央部、さらに東北部へと移遷し1948年東北部解放後、国立沈陽医学院（前身は満州医科大学1911～1945年）と、イギリス人が建てた私立遼寧医科大学（前身は盛京医科大学1891～1949年）を併合し現在に至っている。敷地面積は420,000　、建築面積320,000　である。全職員数は6,000余人で、その内教授、助教授は579人、講師1,082人である。在校学生総数は4,000余人、その内研究生（修士、博士課程）432人、本科生（卒業後は医師になる）2,467人、留学生60人、専科生142人、夜大生336人、師資班200余人、中専生262人である。

付属病院は4ヶ所あり、第一臨床学院は「三級特等医院」で、北京大学と並ぶトップクラスである。第二臨床学院は「三級甲等医院」で新生児・小児病院である。第三臨床学院は中日医学教育中心附属病院で、日本国の援助により建設された。第四臨床学院は歯科病院である。総ベッド数は、2,423である。1995年度の外来患者総数は約150万人で、手術総数は約8,000で

中国医科大学
脳神経外科病棟の回診
左から、王助教授・筆者・趙助手



中国医科大学
第三脳室腫瘍摘マイクロ出手術中
左が筆者

ある。

脳神経外科の手術例は約700例である。脳腫瘍が圧倒的に多く、この一週間でも6例があった。くも膜下出血の脳動脈瘤の手術は月に5～6例であるが、最近は放射線科と共同でinterventional radiologic therapyを行っている。脳外傷は殆どは他の病院へ搬送されるが、重症の場合は大学病院にも搬送される。楊教授は61歳であるがタフであり、4月10日も午前2時から午前5時まで脳出血の患者の緊急手術をされ、午前10時より午後1時まで第三脳室腫瘍の予定手術を執刀された。

医療機器は日本の大学病院にあるものは数は少ないがおよそ揃っており（JICAのラベルの貼ってある機器が多く見られた）、ガンマーナイフも3年前に導入されている。

医療水準、治療成績は日本のそれには及んでいないが、とにかく症例は豊富にある。腎移植は年間約200例行われており、肝移植も行われている。

また、日本やアメリカへの留学も盛んに行われており、この脳神経外科においても現在日本へ3人、アメリカへ3人の医師が留学中である。

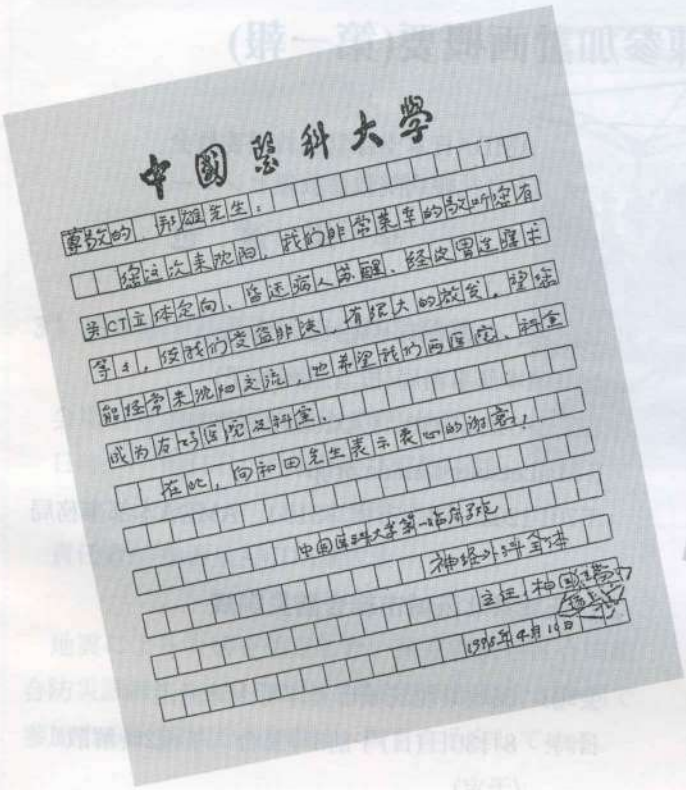
次に、中華人民共和国（中国）の医療事情について若干述べたい。

中国の殆どの医師は医科大学の本科5年を卒業すると医師になる。また医士といって専科3年を経てその後その病院での5年の経験により医師になれる制度もある。医師になった時には成績の良い者は自分の希望する大学病院などに残れるが、成績の悪い者は辺地へ配属命令が出される。

医師になると2年間各科の研修を終えた後、各自内科、外科、脳神経外科、放射線科などの科を専攻しても良い。公衆衛生クラスは臨床の医師にはなれない。

若くても有能であれば院長、副院長に抜擢される。しかし、大学自体は共産党の幹部の管理下にある。

医療費は、共産党員、公務員、教員などは無料である。その他は各職場毎に医療保険を作っており患者は一部を負担する。農民は国が補助しており、一部は負担する。日本と比較すれば平均所得、物価などから勿論医療費も安いが、中国人にとっては負担は相対的に



中国医科大学

尊敬的 郭爾先生：

您这次来沈阳，我的非常荣幸的成为您的密友。

关CT立体定向、昏迷病人苏醒、经皮胃造瘘术等，您我的受益匪浅，有巨大的效益，陪您能经常来沈阳的支流，也希望我的两医院、科室成为友好医院及科室。

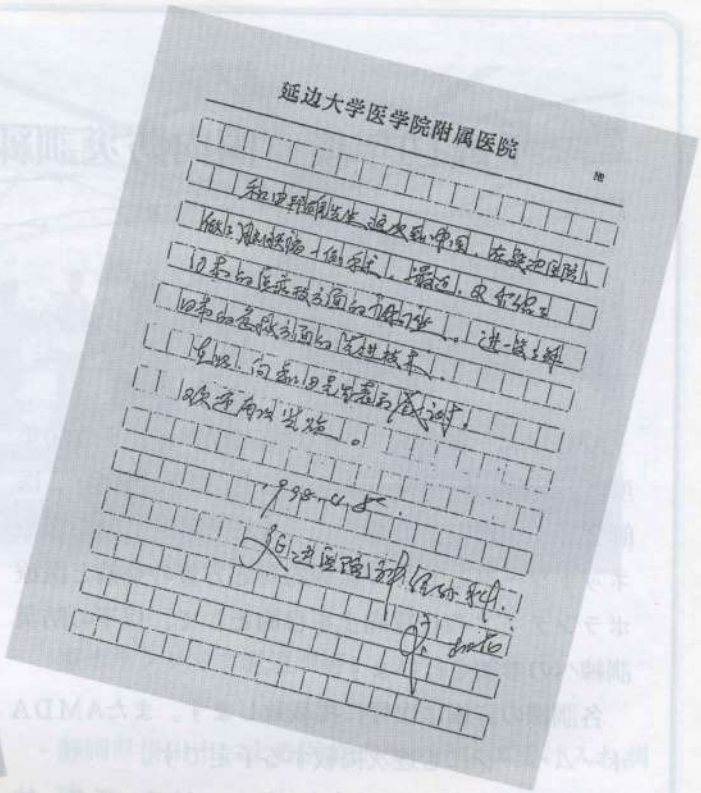
在此，向和田先生表示衷心的谢意！

中国医科大学第一附属医院

神经外科学教授

主任 柳国胜

1998年4月14日



延边大学医学院附属医院

高額である。また外国人には高く請求している（日本人には5倍）。従って患者の方も医者にかからなかったり、かかっても安くすませたいので、医師も心得ていて余分な検査などはしないし、時には必要と思われる検査もしない場合もある。治療、手術などもお金がかかるようだと患者や家族は敬遠する。時には病院の負担になることもある。またX線フィルムは患者側の所有物となっている。

週休2日であるが、土曜日の外来はある。中国人は海外へ出国するのは制限されているが、日本やアメリカの各医学会などへの参加は機会をみてなされており新しい医学への関心は高い。今回のような顔の見える新しい医療の紹介は熱烈歓迎される。

最後に、大切なことは中国は政治的、経済的にも国家が人民に命令を出し強制するという統制社会である。すなわち国家が人民に施しをしているのであり、人民は国家に対して奉仕しているのである。人民が人民に施すという概念は無い。従って国家は人民に対していわば減点主義であり、人民が素晴らしい活躍、貢献をしても目立った褒賞はない。さまざまな管理統制があり、小説「大地の子」にあるように密告が奨励されており、人民の一定以上の活力といったものに乏しい。医師も看護婦も他の労働者も皆同じである。（同じであらねばならないのである）。しかし最近ではこれらも次第に修正されつつあると思われた。

自動車用・工業用ゴム製品の総合メーカー

⑤ 丸五ゴム工業株式会社

本社・工場　倉敷市上富井58　☎(086)422-5111㈹ FAX(086)427-8585
矢掛工場　小田郡矢掛町東川面417　☎(0866)82-0467㈹ FAX(0866)82-0467
営業所　東京・浜松・名古屋・大阪

平成10年度　国内防災訓練参加計画概要(第一報)

AMDA日本支部緊急救援委員会
市立札幌病院救命救急センター
早　川　達　也

AMDAは、国内災害への対応に向けて、平成10年度は、行政、(社) 全日本病院協会(以下全日病)、医師会等関係機関との連携など地域防災民間緊急医療ネットワークとしての組織的対応方策の整備と医療ボランティアの技量向上を目的として、以下の防災訓練への参加を行います。

各訓練の詳細は次号に掲載致します。またAMDAホームページにも逐次掲載する予定です。

参加希望の方はFAXまたはE-mailで、氏名、住所、年齢、職業・資格、連絡先(TEL、FAX、E-Mail Address等)をお知らせ下さい。

尚、全日病北海道支部防災訓練及び茨城県北茨城市総合防災訓練につきましては、前泊が必要な方も多いと予想されますので、宿泊施設を用意します。(費用は自己負担です。)

1）全日病北海道支部病院防災訓練

会場:　北海道札幌市手稲区手稲渓仁会病院
日時:　8月22日(土)　午前10時集合　午後4時解散(予定)
責任者:　早川達也
AMDA緊急救援委員会委員長

地震による災害を想定した、全日病救急委員会が実施する病院防災訓練に、医療ボランティアによる医療機関支援を想定して、AMDA緊急救援委員会及びロジスティックス委員会が参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

・手稲渓仁会病院による医療ボランティア受け入れ訓練
・トリアージ及び初期治療訓練
・札幌市消防局ヘリコプターによる後送病院への患者搬送訓練

申し込み、問い合わせ先:
AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)
TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758
E-Mail:etsuko@amda.or.jp
〒701-1202　岡山市楢津310-1　AMDA本部事務局

2）茨城県北茨城市総合防災訓練

会場:　茨城県北茨城市大津町大津漁港
日時:　8月30日(日)午前8時集合　午後2時解散(予定)
責任者:　鎌田裕十朗
AMDAロジスティックス委員会委員長

津波による災害を想定した、茨城県北茨城市総合防災訓練に、緊急救援委員会、ロジスティックス委員会が(社) 全日本病院協会と合同で参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

・茨城県衛生部及び地元医師会の受け入れ訓練
・応急救護所設置訓練（ノルメカ社エアテント設営）
・トリアージ及び初期治療訓練
・救急車による後送病院への患者搬送訓練
・重症者の県防災ヘリコプターによる広域搬送

申し込み、問い合わせ先:
AMDAロジスティックス委員会
TEL:03-3609-6100、FAX:03-3609-7331
E-mail:kamata@amda.or.jp
〒125-0042　東京都葛飾区金町3-32-11
かまた医院2F

3）東京都渋谷区合同総合防災訓練

会場:東京都渋谷区代々木公園B地区
日時:　9月1日(火)集合及び解散時刻未定
責任者:　中西泉AMDA副代表

地震による災害を想定した、東京都渋谷区合同総合防災訓練に、AMDA及び東京都病院協会が合同で参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

・東京都渋谷区による医療ボランティア受け入れ訓練
・トリアージ及び初期治療訓練

申し込み、問い合わせ先:
AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)
TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758
E-Mail:etsuko@amda.or.jp
〒701-1202　岡山市楢津310-1　AMDA本部事務局

4）静岡県総合防災訓練

会場:　静岡県掛川市小笠山総合運動公園
日時:　9月1日(火)集合及び解散時刻未定
責任者:未定

地震による災害を想定した、静岡県総合防災訓練における災害時医療救護活動訓練に全日本二輪車ボランティア緊急救援機構(　仮称)　として医療ボランティアを派遣する。参加訓練内容は、以下を予定している。

・全日本二輪車ボランティア緊急救援機構による医療ボランティア派遣訓練
・静岡県掛川市による医療ボランティア受け入れ訓練

申し込み、問い合わせ先:
AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)
TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758
E-Mail:etsuko@amda.or.jp
〒701-1202　岡山市楢津310-1　AMDA本部事務局

5）本部事務局災害時プロジェクト たちあげ訓練

会場:　岡山県岡山市楢津AMDA本部事務局
日時:　未定
責任者:　菅波茂

災害時のプロジェクトのたち上げをより円滑に行うために、関係機関への連絡、本部事務局員及びボランティアの役割分担、関係機関への連絡等のシミュレーションを行う。

その他、埼玉県より防災訓練参加要請があり参加の有無について検討しています。

尚、これらの訓練は、平成10年度厚生科学研究費補助金(6月7日現在、申請中)の助成を受けて実施されます。

AMDA神奈川総会

大和市勤労福祉会館　1998年5月30日

（参加者13名、新しい方も見えました）

議題

1．決算報告

【収入】

新規通帳作成	97/09/12	100円
設立総会募金	10/31	7,040円
寄付	同	10,000円
募金箱	同	9,022円
※預金利子	98/04/01	22円
※寄付	98/04/27	24,608円
小計		50,792円

【支出】

※会議室使用料	98/04/27	600円
※通信費（葉書代）	同	3,500円
小計		4,100円

【収入】－【支出】＝【収支】

50,792円－4,100円 ＝ 46,692円

※　98年度扱いですが、4月27日の（現在高）と言う事でご承知おき下さい。

有川格監事が立ち会いました。

〔代表より補足〕

昨年度はAMDA神奈川独自で会費を徴収すると、本部との二重取りになるので徴収しませんでしたが、今年度も引き続き徴収しないでやって行きたいと思う。

参加者の中から「任意で寄付するのはどうか」と発言あり、袋が回された。

2．ネパール『あしながおじさん・あばさん』プロジェクトについて

小林代表：Damak市にAMDAが経営する病院付属施設に看護婦・検査技師養成学校があり、奨学金の問い合わせをしたところ、看護婦課程女子3 名と検査技師課程男子2 名の回答が送られて来たが、父親の名前・職業、家族数、宗教等が書かれているだけで、その他の選考の手掛かりになるような項目がない。本当に本人が経済的に困っているのか確認していないが、確認するだけで『もらえる』と勘違いする可能性があるので、確認出来ない状態。そこで1人に1年間の学費4万円を渡す方法と、数名に1万円ずつ渡す方法があるが、なるべく直接本人に手渡せるような手立てを考えたい。

（質問が幾つか出たが）妙案が出ないようなので、担当の伊藤さんと話し合ってみる。

3．国際交流NGO祭98横浜（仮称）について

昨年11月、第1回目（横浜市国際交流協会主催）がクインズスクエアーで開催されたので、今年が第2回目。

今年度は11月14日（土）・15日（日）、横浜山下町の産業貿易ホール（パスポートセンターが入っている建物）の1階で行われる予定。

AMDA神奈川では『出来そうな催し物を考える』ことで進めることになった。

（VTR・パネル展示等）

応援して下さる方は担当の篠原さんまで連絡下さい。次回の会合は6月11日（木）。

4．神奈川防災ネットワークについて（4月25日に会合があった）

提案：参加団体は運営団体などを含めて115団体ですが、会費は1口千円で3～5口となっています。

＜書評＞

「地雷と聖火」

(原題: Mines and The Olympic Flame-Life is all about otherpeople)

クリス・ムーン著、小川みどり訳、吹浦忠正監訳、

1998年4月　青山出版社

1,600円（消費税含まず）

◇

AMDA日本支部副代表
岡山大学医学部公衆衛生学
山本　秀樹

本年2月の長野オリンピックの開会式の聖火リレーにおいて地雷事故で義足を付けることを余儀なくされた片足のランナーのシーンをＴＶで見られた読者の方も多いと思う。この本の著者はその聖火ランナーを努めたクリス・ムーン氏で、彼のこれまでの生きざまを記したものである。ムーン氏はイギリスの地雷撤去を行うNGOであるHALO(Hazadous Area Life - Support Organization) に参加したが、1995年に不幸にもモザンビークにおいて地雷の撤去作業中に地雷に触れて右足・右手を失ってしまう。壮絶な経験を経た著者であるが、前向きな姿勢を持ち続け、リハビリに励み世界中で地雷に苦しむ人たちの救済のために健常者でも過酷といわれるサハラ砂漠縦断マラソンや数々のレースに参加してきた。AMDAでは地雷が数多く残っているカンボジア・アンゴラ・モザンビーク・アフガニスタン等の国々でAMDAのスタッフが現在も地雷と背中合わせで活動を続けていて、我々にとってなじみの深い地名が本書の中でもしばしば出てくる。AMDAでも地雷の被災者のためのリハビリテーションやアンコールワット・国際ハーフマラソン等の地雷被災者の支援運動に参加しているが、ムーン氏がNGO活動に参加するに至った経緯や葛藤、昨年亡くなった英国ダイアナ皇太子妃らの支援者たちと協力して障害を乗り越えて活動を続けた経験や、本書の出版等でムーン氏をはじめとする国際的な地雷根絶運動をサポートしてきた「難民を助ける会」のスタッフ・ボランティアの方々の活動はAMDA関係者のみならず多くの人々に多くの示唆と教訓を与えることと思う。

AMDA神奈川として参加すべきか。

今後の会場は西湘地区が小田原市・湘南地区が茅ヶ崎市・県央地区が大和市で予定されている。

発言①：現在のネットワークは何がどの程度機能しているのか。AMDA神奈川として何が出来るのか。

発言②：医療・家屋・運輸等にわたって活動する場面があるはずだが、神奈川県が被災地になった場合は、私達がＡＭＤＡの中心にならねばいけない。当面は会費を支払わずオブザーバーとして参加、ネットワークの動向を見極めてはどうか。

5．医療通訳プロジェクト助成金に関する件

小林代表：神奈川県国際交流基金を申請しなかった。

その理由は、申請した金額が補助されるという、今までのやり方ではなく、今年度から『費用の半額が補助される』と言う形態に変わり、現在ＡＭＤＡ神奈川の手持ちの予算と同額では活動が制約される。したがって、今回は助成金を申請せず、参加者から千円ずつ徴収し、病院施設や講師については、小林が無料でやって戴ける所を交渉して確保したい。また緊急性として、特定の外国語に絞って実施したい。

6．自己紹介（新しい参加者のために自己紹介をしました）

『たまには皆さんで一緒に、何か楽しいこと（出掛ける？・食べる？・おしゃべり？）をやりたいですね！』の発言あり。大賛成！（以下略）

AMDA 沖縄支部便り

設立：1995年9月設立

事務局：沖縄県那覇市与儀1－26－6　　TEL098（854）5511
医療法人寿仁会　沖縄セントラル病院内　　FAX098（854）5519

支部長：大仲　良一　　会員　28人（1997年12月31日現在）

理念：自然災害や難民に対する緊急救援活動の包括的システムの設備による「民間からの国際貢献」並びに沖縄の「ユイマール（お互いに苦楽を共に助け合う）」や「イチャリバチョーデー（出会ったその時から皆兄弟）」の精神に基づく在日外国人の支援等の具現化と活動の向上を図ることを理念とする。

活動内容

A．非常急時
1）発展途上国への医療、保健衛生面を通しての支援活動
2）在日外国人への医療、保健衛生面での支援活動
3）在日外国人への生活、言語面での支援活動
4）在日外国人との友好親善活動
5）県内NGO諸団体との連携
6）企業ボランティア制度との連携
7）地方自治体、研修制度との連携
8）海外進出企業との連携
9）緊急時に要求される項目の準備
10）活動資金の調達

B．AMDA支部との緊密な連携による支援活動
1）会員間の通信体制の整備及び輸送手段の確保
2）救援物資、医薬品、食糧、その他の調達
3）派遣人員の選定

1997年度活動

1．フィリピンへ中古ベット（120床）の搬送
2．ペルー、リマ市における学校建築資金造成の為のバザー活動
3．ペルー、リマ市における学校建築資金造成の為のチャリティーショー支援活動

＊国際貢献活動に関心のある方々の会員募集をしています。
詳しくは、前記事務局までご連絡下さい。

AMDA 海外派遣者を募集しています

AMDAでは海外で活動を希望される医師、看護婦、調整員の方々を随時募集いたしております。
青年海外協力隊OB・OGの方々への海外派遣募集、AMDA海外フィールド派遣者募集についてもお問い合せください。

●募集・応募に関しての問い合わせは本部・担当 小池まで
TEL：086-284-7730　FAX：086-284-8959

AMDA関係
刊行物のご案内

・お問い合せは、AMDA本部事務局まで。
TEL 086-284-7730　FAX 086-284-8959
・お申し込みは、郵送かFAXでお願いします。
・お支払いは、郵便振替でお願いします。送料別。
口座 AMDA出版　口座番号 01220-6-12076

■AMDAの提言

—人道援助の世界都市—

・菅波　茂著
・出版元　山陽新聞社
・1996年11月25日発行

岡山から世界に飛び出し、国際的な医療NGOとして知られるAMDA。その代表の著者が問いかけ、提案する。「日本は経済大国から、人道援助大国をめざせ。岡山に世界へ向けての人道援助ネットワークの拠点を築こう」と。

256頁

ISBN4-88197-607-9 C0036　P1600E

定価1,631円

■AMDA Journal

毎月1回発行

— 国際協力 —

アジア・アフリカ・南米でのAMDAの医療救援活動のレポートを中心にした月1回発行の情報誌。会員には会報として自動的に送られている。

初刊1992年12月より現在に至る。バックナンバーは一部を除いて揃っています。希望の方は、AMDA事務局まで。

定価800円

■ルワンダからの証言

—難民救援医療活動レポート—

・AMDA著
・出版元　中山書店
・1995年4月3日発行

援助大国とはいえ、国際的なNGOに比べると組織は小さく財政的にも弱い日本のNGOが、劣悪な環境の中でルワンダ難民のために活動した記録。

200頁

ISBN 4-521-00541 C0030　P2000E

定価2,039円

■遥なる夢

—国際医療貢献と地域おこし—

・菅波　茂　著
・出版元　AMDA
・1993年9月20日発行

AMDA設立までの経過と活動記録。AMDAに関わった人々について紹介すると共にAMDAの展望と日本のNGO活動への提言。

316頁

定価2,500円

■とびだせ！AMDA

— AMDA・アジア医師連絡協議会の活動 —

・菅波　茂著
・出版元　厚生科学研究所
・1995年7月15日発行

第1部　阪神大震災におけるAMDA医療ボランティアの動き。緊急救援活動における後方支援体制。防災への提言。

第2部　国際緊急救援での活動記録。バングラデシュ、ネパール、カンボジアやルワンダ、ソマリアなどの紛争地区での難民救援活動の記録。270頁

ISBN 4-905690 21-8 P1800E

定価1,835円

■はばたけ！NGO・NPO

—世界の笑顔にあいたくて—

・ひろしま国際センター編
・出版元　中国新聞社
・1998年3月25日発行

自然災害・難民救済・環境破壊・高齢者福祉など様々なボランティア活動は国内だけでなく国際的な広がりが求められています。広島県と共同開催の第一回NGOカレッジの講義録で、国際ボランティアを志す人に必携の書。328頁

ISBN4-88517-263-2 C1030　P1800E

定価1,850円

■阪神大震災と市民ボランティア

—岡山からの証言と提言—

・小田兼三・田代菊雄編著
・出版元　山陽新聞社
・1995年9月1日発行

岡山は動いた！5千人を超す犠牲者を出した阪神大震災。岡山県内からは自治体、民間を問わず大勢の人が活動を続けてきた。その活動と今後への提言を記録した。

270頁

ISBN4-88197-607-9 C0036　P1500E

定価1,529円

AMDA国際医療情報センター便り

1. 電話による相談（無料）：外国語の通じる医療機関の紹介、日本の福祉・医療制度案内など
2. 外国人の医療問題に関するシンポジウム、セミナーの開催
3. 「１１ヶ国語診察補助表」９ヶ国語「服薬指導の本」
   「１６ヶ国語歯科診察補助表」および「両親学級の資料」の出版、販売
4. 東京都健康推進財団からの受託事業（センター東京）

センター東京

〒160-0021　東京都新宿区新宿歌舞伎町郵便局留

相　談　TEL：０３-５２８５-８０８８

事務局　TEL：０３-５２８５-８０８６　ＦＡＸ：０３-５２８５-８０８７

対応言語：	英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語：		
時　間		月曜日～金曜日	９：００　～　１７：００
	ポルトガル語：	月、水、金曜日	９：００　～　１７：００
	ピリピノ語：	水曜日	９：００　～　１７：００
	ペルシャ語：	月曜日	９：００　～　１７：００

センター関西

〒556-0000　大阪市浪速区浪速郵便局留

相談／事務局TEL：０６-６３６-２３３３　ＦＡＸ：０６-６３６-２３４０

対応言語：	英語・スペイン語：	月曜日～金曜日	９：００　～　１７：００
時　間	ポルトガル語：	水曜日	１３：００　～　１６：００
	中国語：	木曜日	１３：００　～　１６：００

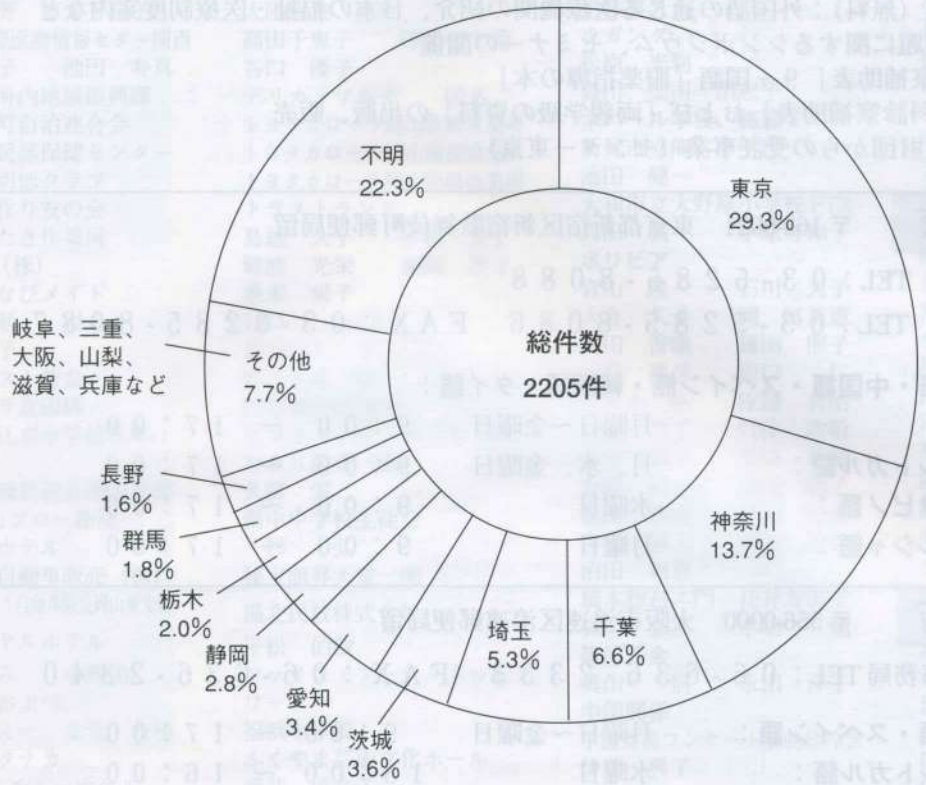
ホームページ　http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack/

インターナショナルデーのバザーの報告

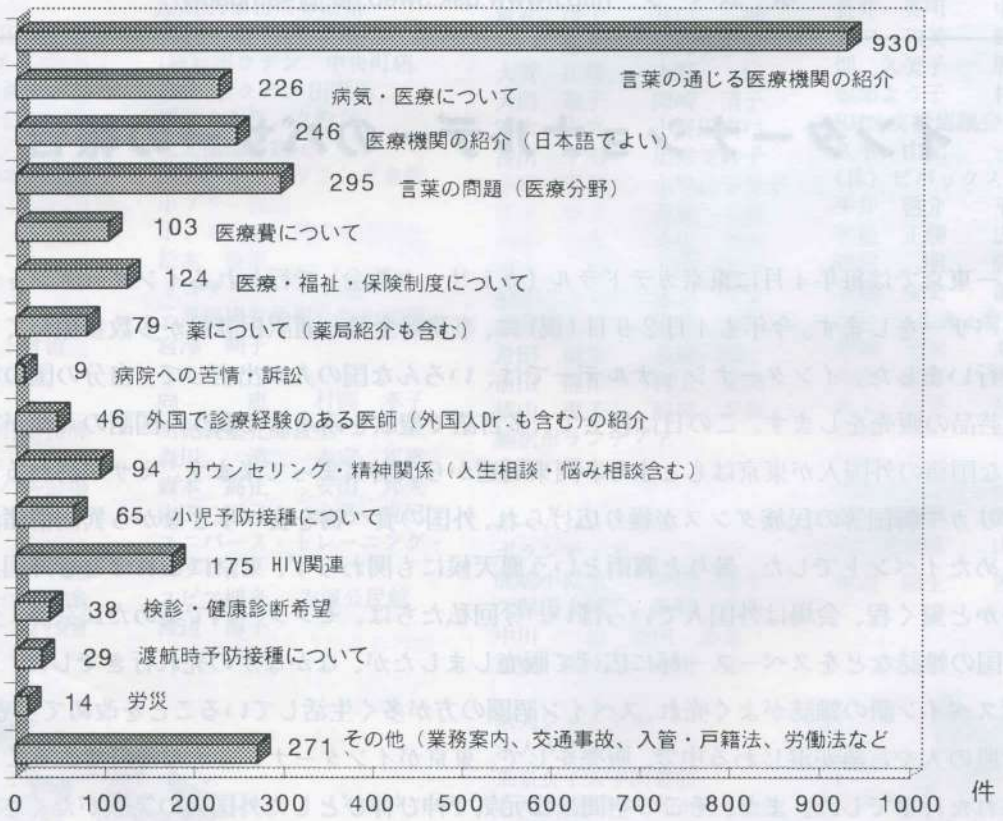
センター東京では毎年４月に東京カテドラル（カトリック教会）で行われるインターナショナルデーに参加してバザーをします。今年も４月２９日（祝）に、事務局全員と通訳相談員が多数参加してフリーマーケットを行いました。インターナショナルデーでは、いろんな国の人が出店して、自分の国の料理を作ったり、民芸品の販売をします。この日は教会で、多言語で聖歌をみんなで歌う外国語のミサが行われるため、様々な国籍の外国人が東京はもとより、関東周辺から大勢集まって来ます。ミサが終わると教会の広場でアフリカや韓国等の民族ダンスが繰り広げられ、外国の食べ物を食べ歩きながら異国情緒溢れた雰囲気が楽しめたイベントでした。曇りと霧雨という悪天候にも関わらず、東京にこれほども外国人が生活しているのかと驚く程、会場は外国人でいっぱい。今回私たちは、センター内で集めた民芸品、生活用品や衣料、外国の雑誌などをスペース一杯に広げて販売しましたが、なかなかの売れ行きでした。中でも、思いがけずスペイン語の雑誌がよく売れ、スペイン語圏の方が多く生活していることを改めて実感しました。いろんな肌の人や言語が混じわる中で、販売をして、東京がインターナショナルな町であることを肌で感じさせられた行事でした。また、そこの空間には元気で伸び伸びとした外国人の笑顔がたくさんあり、どこかほっとしました。みんなが幸せ気分に浸れた１日を味わえ楽しかったです。（センター東京発）

センター東京　1997年下期　相談傾向

相談者居住地域



相談内容傾向（複数回答）



センター東京　1997年度下半期国別相談件数

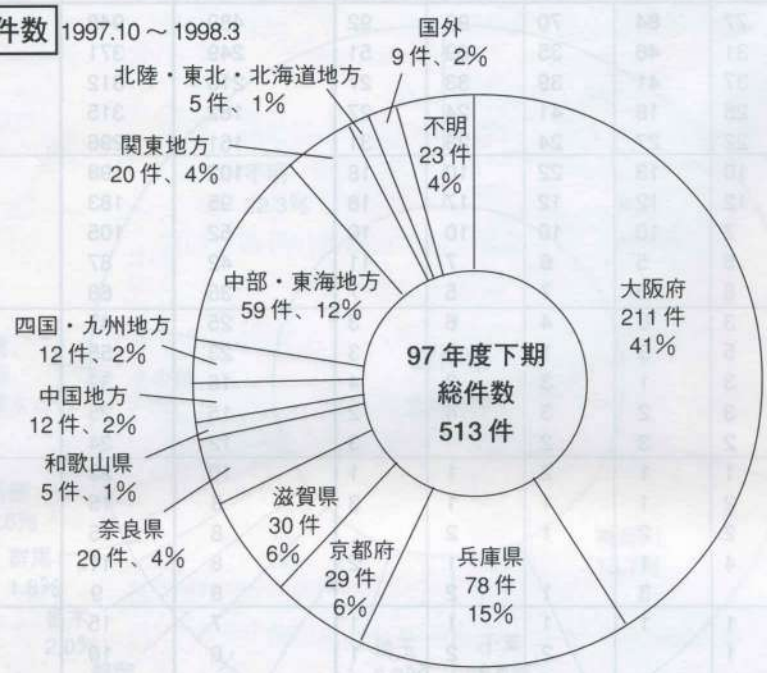
1997年度下期に相談のあった国籍を多い順に並べました。開設は1991年4月

	Oct-97	Nov-97	Dec-97	Jan-98	Feb-98	Mar-98	97年度/下半期	97年度	累計(1991-1997)
ブラジル	76	77	84	70	90	92	489	948	2,957
ペルー	17	31	46	35	69	51	249	371	1,636
タイ	36	37	41	39	33	27	213	312	673
U.S.A	24	28	18	41	24	27	162	315	2,095
日本	34	22	27	24	23	31	161	296	1,093
中国	29	10	13	22	10	18	102	198	1,292
フィリピン	24	12	12	12	17	18	95	183	1,005
英国	5	7	10	10	10	10	52	105	470
韓国	8	5	5	6	7	11	42	87	425
カナダ	7	6	3	7	5	7	35	68	349
オーストラリア	4	3	5	4	6	3	25	47	291
イラン	8	5	3	1	3	3	23	55	607
インド	2	3	1	3	3	4	16	32	136
ドイツ	1	3	2	3	4	2	15	25	102
アルゼンチン	2	2	3	2		3	12	24	95
コロンビア	4	1	1	2	1	1	10	23	117
パキスタン		2	1	1	1	3	8	15	114
フランス	1	2	2	1	2		8	15	86
スペイン		4	1		1	2	8	11	53
ナイジェリア	2		3	1	2		8	9	69
バングラデシュ	2	1	1	1	1	1	7	15	172
ミャンマー		1		2	2	1	6	10	83
ネパール	2	1		1	1	1	6	10	67
ボリビア	1	3	2				6	13	78
スリランカ	1	2		1	1		5	16	114
イスラエル	1			2	1	1	5	8	41
インドネシア		1			2	1	4	8	36
ベトナム		1	1		1	1	4	7	23
フィンランド		2			2		4	5	12
メキシコ		1	1		2		4	12	51
ロシア			1			2	3	6	23
チリ				2	1		3	7	16
ニュージーランド			1	1	1		3	11	61
タンザニア	1			1	1		3	3	3
台湾	2						2	5	96
スイス				2			2	5	19
ベルギー	1		1				2	4	7
ベネズエラ						2	2	3	5
キューバ		1	1				2	2	4
ガーナ				2			2	3	48
トルコ				1		1	2	2	16
マレーシア		1					1	2	48
シンガポール		1					1	1	27
香港	1						1	4	25
ブルネイ	1						1	1	2
イタリア				1			1	3	22
オランダ	1						1	2	16
ギリシャ	1						1	1	3
ポーランド			1				1	3	15
ルーマニア				1			1	1	2
ハンガリー				1			1	1	2
エクアドル		1					1	1	5
ミクロネシア						1	1	1	1
ザンビア						1	1	1	2
南アフリカ						1	1	2	3
ウガンダ	1						1	1	3
モザンビーク				1			1	1	1
その他の国							0	21	186
不　明	78	60	70	44	66	61	379	729	2,863
合　計	378	337	361	348	393	388	2,205	4,070	17,866

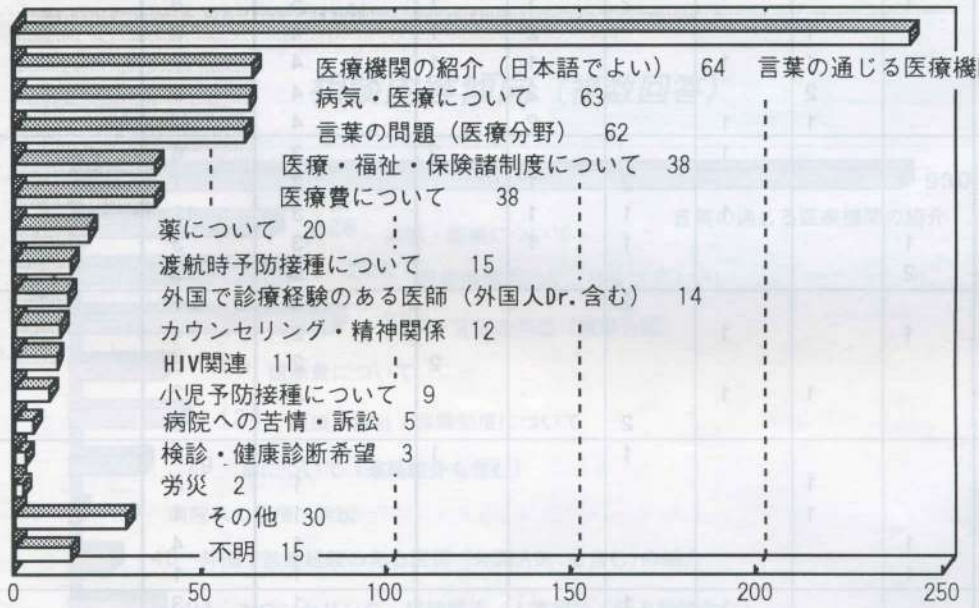
センター関西　1997年度下期　相談受付状況

開設からの相談件数累計（1993年12月～1998年3月）　4,136件

居住地別相談件数 1997.10～1998.3



相談内容別件数（複数回答） 1997.10～1998.3



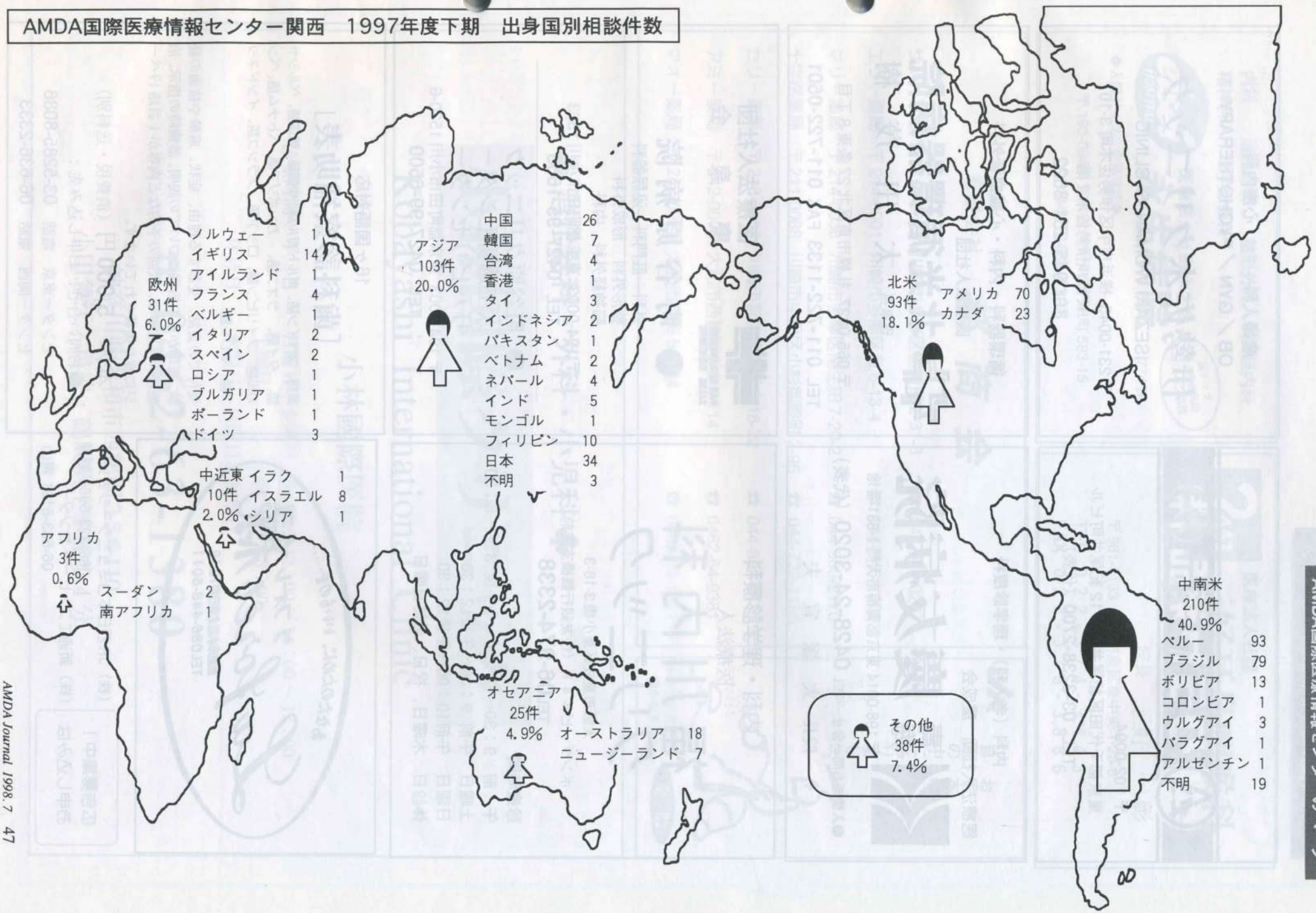
他機関からの相談件数 1997.10～1998.3

公的機関	27
NGO	25
医療機関	11
企業	13
マスコミ	8
国際交流協会	9
教育機関	7
その他	14
不明	3
合計	117件

他機関からの相談内容（複数回答） 1997.10～1998.3

活動内容	46
医療・病気について	3
言葉の問題	7
医療機関紹介	8
医療・福祉・保険制度について	3
取材	8
出版物	5
その他	52
合計	132件

AMDA国際医療情報センター関西　1997年度下期　出身国別相談件数



クラヤ薬品(株)

〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井町ビル
TEL 03-3238-2700（代表）

産婦人科　心療内科
OB／GYN／PYCHOTHERAPY
伊勢佐木クリニック
ISEZAKI WOMAN'S CLINIC
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 3-107
K ビル伊勢佐木 2 階
TEL 045-251-8622

内科（老人科）・理学診療科
医療法人社団　慶成会
青梅 慶友病院
〒198-0014 東京都青梅市大門 1-681 番地
●入院のお問い合せ—TEL 0428-24-3020（代表）
院長 大 塚 宣 夫

循環器科・内科・心臓血管外科
医療法人社団
北光循環器病院
理事長 太 田 茂 樹
〒065-0027 札幌市東区北 27 条東 8 丁目
TEL 011-722-1133 FAX 011-722-0501

内科・理学診療科
医療法人
福川内科クリニック
大阪市東成区東小橋 3-18-3
ボングービル 4 F（住友銀行鶴橋支店前）
TEL06-974-2338
診療時間
午　前　9：30～12：30　　午後 3:30～6：30
土曜日　午前 9：30～午後12：30
日曜日　午前10：00～午後12：30
休診日　木曜日、祝日、最終日曜日

PAX INTRANTIBUS SALUS EXENTIBUS
医療法人社団
慶 泉 会
● 町谷原病院
外科　肛門科　泌尿器科
整形外科　形成外科
脳神経外科　内科
〒194-0003 東京都町田市小川 1523
TEL 0427-95-1668
● 町谷原クリニック
人工透析センター
リハビリセンター
〒194-0003 東京都町田市小川 1530-6
TEL 0427-99-6500

あなたのために、いいものを……
ラフォーレ緑
La forêt
倉敷市水島北春日町13-18
TEL086-448-6011

16ヶ国語対応
「歯科診察補助表」
英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ペルシャ語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、インドネシア語、マレー語
受付での会話、受診する理由、症状、麻酔や抜歯の経験、医師からの治療についての説明、診療時の指示、治療後の注意事項、次回の予約など内容が 1 言語 19 ページに渡り掲載されています。
本体　5,000 円（消費税・送料別）
●お問い合せ、お申し込み先：
センター東京　電話　03-5285-8086
センター関西　電話　06-636-2333

広告募集中！
お申し込みは
（株）JR西日本コミュニケーションズ
086-223-6964 岩井
（株）新通エス・ピー・センター
06-533-6191 青山

内科　消化器科　整形外科　神経内科
精神科　理学診療科

医療法人社団 永生会
永生病院　774 床

脳ドッグ
老人保健施設
イマジン開設

◆人間ドック　企業健診◆

〒193-0942 東京都八王子市椚田町 583-15
TEL 0426-61-4108

医療法人社団
三好耳鼻咽喉科クリニック
院長　三好　彰

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 1-23-6
TEL 022-374-3443
FAX 022-378-3886

有限会社 **都商会**

サリー薬局	〒214-0021	川崎市多摩区宿河原 2-31-3	☎ 044-933-0207
エリー薬局	〒214-0001	川崎市多摩区菅 6-13-4	☎ 044-945-7007
マリー薬局	〒214-0036	川崎市多摩区南生田 7-20-2	☎ 044-900-2170
十字路薬局	〒211-0068	川崎市中原区小杉御殿町 2-96	☎ 044-722-1156
セリー薬局	〒216-0003	川崎市宮前区有馬 5-18-22	☎ 044-854-9131
アミー薬局	〒242-0005	大和市西鶴間 3-5-6-114	☎ 0462-64-9381
マオー薬局	〒242-0021	大和市中央 5-4-24	☎ 0462-63-1611

JA
お手本は、
自然の中にありました。

小さな知恵から、
豊かな未来へ。
全問

♣ 消化器科・外科・小児科 ♣

小林国際クリニック

Kobayashi International Clinic

小林國際医院

診療時間：平　日　月曜日～金曜日　9：15～12：00／14：00～17：00
土曜日　9：15～13：00
休診日　水曜日、日曜日、祝祭日

☎ 0462-63-1380

神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110
小田急江ノ島線・鶴間駅下車徒歩 4 分

事務局便り

AMDA 新スタッフ紹介

市川捷治（しょうじ）と申します。今般、40年振りに岡山で生活することとなり、縁あって財務局の仕事をさせて頂くことになりました。よろしくご指導のほどお願いいたします。

昭和30年代の後半から外航海運業に30年間勤務し、管理部門を中心に子会社第三セクターを含め、大、中、小規模の組織で仕事をしました。その後は教育サービス業に転じ内部監査、株式法務を担当し、株式公開の準備や株主総会の事務局を担当しました。

ＮＧＯへの転進に伴い、意識の変革を迫られつつある昨今ではありますが、非営利団体においても、組織の仕事はある程度の専門知識と人間関係の調和があれば、それなりの成果が得られるものと思われます。勿論、ＮＧＯ特有のMORALEも重要ではありますが・・・。

駆け出しの身ではありますが、一般企業での外国為替や予算統制の実務経験のなかからもエッセンスを吸収しつつ、ＮＧＯとしてのコスト・パフォーマンスの改善に多少なりとも貢献できないものかと考えております。

日常活動として講演会や募金などを通じて少しでも果実を増やすことも実践したいと思います。

お知らせ

●第２回ＮＧＯカレッジ：基礎コース

７月25日（土）～29日（水）　広島国際協力センター

お問い合わせ：

広島県・国際交流課（蒲原）082－228－2111

●夏まつりおかやま '98 フルーツマーケット AMDA ブース出店予定

８月１日（土）16：00～22：00　岡山城一帯

●平成11年度　高等教育学位プログラム（海外）応募者募集

お問い合わせ：（財）国際開発高等教育機構（FASID）事業部　安達・近藤　TEL 03-5226-0303（ダイヤルイン）FAX 03-5226-0023

募金のお願い

AMDAは皆様からのご支援をいただきながら、アジア、アフリカ、南米において多くの人道援助活動を展開してまいりました。しかし21世紀にむけて環境破壊による地球温暖化、インド・パキスタンの核実験等、一国では解決できない諸問題をかかえ、ますます地球規模での解決策が必要とされてきています。そして経済大国であり、能力がありながら核を否定し、武器を売らない日本は、世界平和の積極的役割を担っていく時代になってきたと思われます。

このような中で、AMDAはアジア、アフリカ、南米の21支部の人々とパートナーシップを結び、政治、宗教、文化を越え、必要とされる人々の所で今後も活動を続けていきたいと思っております。市民による相互支援－相互理解－相互信頼から生み出される世界平和の創出が、なによりも戦争の抑止力となることを確信し、活動していく所存です。　現在、緊急救援活動のみならず、保健医療・教育・地域開発・人材育成・女性支援など発展途上国の自立支援のための活動のほか、ネパール、ミャンマー、ウガンダにおきまして「母と子の病院」建設の計画も進めております。日本国内では日本医師会、全日本病院協会と防災ネットワークを組み、さらに自治体とも合同で防災訓練を重ね、日本のどこで災害が起こっても、２４時間以内に救援活動が開始できるように準備しております。

以上のような救援活動を続けるためには非常に多くの資金を必要といたします。しかしながら、日本のODAは７年連続世界第１位であるにもかかわらず、海外で働くNGOへの公的援助は諸外国に比べると極端に少ないのが現状です。そのためよく言われる「顔の見える援助」ができにくい体制にあります。

どうぞAMDAの活動をご理解下さいまして、皆様からのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

皆様からのご支援金は皆様に代わりまして発展途上国の人々にお届けし、皆様と共に救援活動を行っていく所存でございます。

1998年６月

AMDA代表　菅波　茂

＊課税優遇措置をご希望の方はAMDA事務局までお申し込みください。（財務　市川）

AMDA　Journal に関するお問い合せは、AMDA広報局　TEL 086-284-7730 まで

ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご使用になるか、下記口座をご利用下さい。いずれも振込目的を明記して下さい。

■中国銀行一宮支店（普通）　口座番号１２７２０１１　口座名　AMDA

■第一勧業銀行岡山支店（普通）　口座番号１８１６９４７　口座名　AMDA

■クレジットカード（全日信販のAMDAカード）での会費納入方法もあります。

AMDAカードについてのお問い合せは、全日信販株式会社　本社営業部　086-227-7161です。

AMDAホームページ
http://www.amda.or.jp

AMDAへのご支援を

1 AMDAへの入会

- 医師会員　15,000円
- 一般会員　10,000円
- 学生会員　7,500円
- 法人会員　30,000円
- 賛助会員　2,000円

会費は入会の月より1年間有効です。入会の月より毎月、「AMDA Journal」を送付します。
賛助会員にはAMDAダイジェストを送付します。

2 AJ AMDAカード
全日信販発行

利用額の0.5%が全日信販よりAMDAに提供されます。
●お問い合せは
AJ AMDAデスク TEL086-227-7151

3 AMDA テレホンカード

■1枚（50度数）　1,000円
300円が収益となります。
送料　2枚まで80円　3枚から無料

4 AMDAボランティア定期預金
中国銀行

税引き後、利息の20%をAMDAにご寄付いただきます。
中国銀行からも預け入れの口数に応じて、寄付をいただきます。
●お問い合せは　TEL086-223-3111

5 0070　高速通信 ボランティアダイヤル

0070市外電話ご利用額の5%が義援金（全額テレウェイにて負担）としてAMDAに提供されます。
●お申し込みは
TEL 0077-800-0070-70（無料）

6 絵はがきセット
ルワンダ難民の描いたキャンプ風景葉書

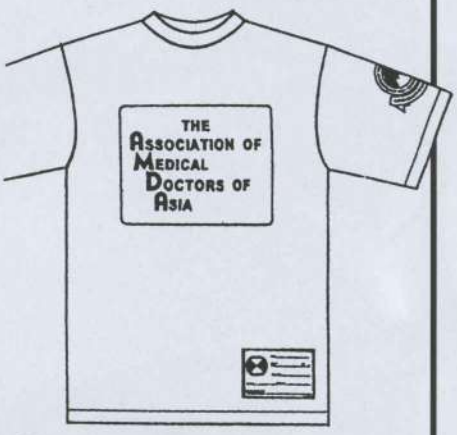
はがき　20枚1組　1,000円
カード　10枚1組　1,000円
送料　1組100円　3組以上は無料

7 AMDA Tシャツ

■Lサイズのみ1,900円

津村ゆうすけ氏デザイン
ファイナルホームの製品
- ホワイト（グリーンのロゴ）
- グレー（ブラックのロゴ）

送料　1枚300円　2枚400円　3組以上は無料



8 AMDA 募金箱設置

AMDA募金箱設置が可能な方、ご連絡下さい。

9 AMDA自立支援グッズ

「AMDAの自立支援プロジェクト」支援のためネパールで作成された。

カレンダー	1枚	800円
レターセット封筒	10枚	200円
便箋	15枚	300円
THE ZODIAC（タイの香）	1セット	400円

＊未使用のテレホンカード・書き損じのハガキ・未使用の切手、ハガキなどがありましたらAMDAにお送り下さい。
＊入会1.は　郵便振替　名義AMDA　口座番号01250-2-40709まで
＊購入3.6.7.は、郵便振替　名義AMDA販売　口座番号01220-9-8991まで
ご希望の方は、振込用紙に詳細をご記入の上、金額をお振込下さい。
＊2 4 5は各自で加入して下さい。
＊その他お問合せは、AMDA本部　岡山市楢津310-1　TEL 086-284-7730へ

あなたもできる国際協力

熱いぜデジオ!

スターデジオは聞く PerfecTV!

驚異の高音質100チャンネルデジタルラジオ

J-POP STATION Ch400-419

KAYŌ & ENKA STATION Ch420-429

JAZZ SPECIAL STATION Ch430-439

CLASSIC SPECIAL STATION Ch440-449

FOREIGN POPS STATION Ch450-474

EXTRA Ch475-499

STAR digio

Ch400-499

BROUGHT TO YOU BY DAIICHIKOSHO CO.,LTD.

お問い合わせは PerfecTV! カスタマーセンター 東京 0570-039-888 受付時間 9:00~21:00

NEO TRADITIONAL

古き良き時代のレーシングフィールドの興奮を現代に、
"本物だけが、歴史を創造する。" 人間と機械の優雅なハーモニー。
伝統の優れた機能を最新の技術で引き出し、古典的な優美さを芸術性豊かに醸し出す。

ネオ・トラディショナル レーシングタイプドラムブレーキ

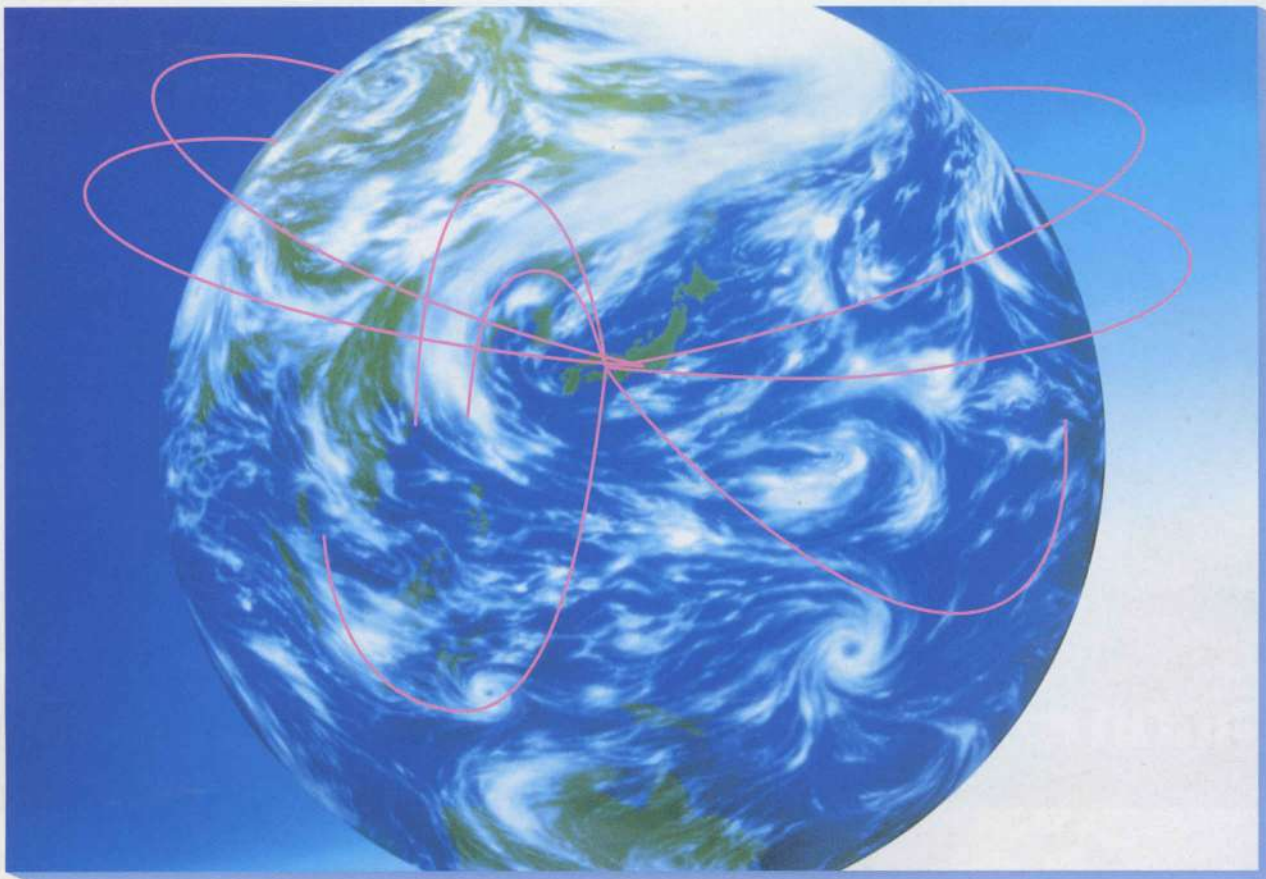
kanrin ㈱カンリン 〒702-8001 岡山市沖元464
TEL.086-274-3056 FAX.086-277-8115

OS Racing Power Unit & Parts Development
GIKEN Co.,Ltd.
〒702-8001 岡山市沖元464 TEL.086-277-6609 FAX.086-277-8115

AMDA Journal－国際協力－ 1998年7月号

1998年7月1日発行（毎月1日発行）VOL.21 No.7 1995年11月27日 第三種郵便物認可 定価800円
発行／エイド企画 編集／AMDA 〒701-1202 岡山県倉敷市玉島乙島7310-1 TEL086-284-7730 FAX086-284-8959
AMDAホームページ http://www.amda.or.jp

心をつなぐ文化の架け橋



四季折々の和菓子や器を通して日本の美しい文化を
世界中の人々に、そして後世に伝え残したい。
和菓子の世界だけにとどまらず、
文化を通じて人々の心をひとつにできたら……。
そんな思いを込めて、地球サイズでの店舗展開を進めています。
安らぎの場と文化・芸術に親しんでいただくことで
源 吉兆庵が文化の架け橋となれることを願って……。

ニューヨーク五番街店　岡山本店　ロンドンピカデリー店

NEW YORK	/ 608 FIFTH AVENUE, NEW YORK, NY10020 USA	TEL (1)212-489-3747
	/ YAOHAN PLAZA 595 RIVERROAD, EDGEWATER, NJ07020 USA	TEL (1)201-313-9335
LONDON	/ 44 PICCADILLY LONDON WIV 9AJ UK	TEL (44)171-437-3135
	/ LONDON SOGO DEPT. STORE THE CRITERION BLDG. PICCADILLY CIRCUS LONDON WIV 9LB UK	TEL (44)171-839-3146
SINGAPORE	/ TAKASHIMAYA DEPT. STORE 391-A ORCHARD ROAD #B2-03-6, SINGAPORE 238873	TEL (65)735-1315
TAIPEI	/ DAYEH TAKASHIMAYA DEPT. STORE NO.55 SEC.2 CHUNG CHENG RD, SHIH LIN DIS, TAIPEI, TAIWAN	TEL (886)-2-831-7624
	/ PACIFIC SOGO DEPT. STORE NO.45 SEC.4 CHUNG HSIAO E. RD. TAIPEI, TAIWAN	TEL (886)-2-711-9712
HONG KONG	/ HONG KONG DAIMARU KINGSTON ST. CAUSEWAY BAY, HONG KONG	TEL (852)2577-5702
HAWAII	/ JAL WAIKIKI PLAZA 2272 KALAKAUA AVENUE HONOLULU HI 96815 USA	TEL (1)808-924-3655

京菓 源吉兆庵（みなもときっちょうあん）
本店 岡山市駅港新町1丁目24-21 電話(086)263-2651(代)

Minamoto Kitchoan
NEW YORK LONDON SINGAPORE TAIPEI HONG KONG HAWAII